2017年7月1日

青森大学ニュース No.32

青森大学の教育理念を実現する三つの方針

学長　崎谷康文

はじめに

青森大学は、建学の精神に基づき、地域に根差し、「地域とともに生きる大学」として、将来の地域社会を担っていく人材を育成し、地域社会の活性化の拠点としての役割を果たしてきた。青森大学の教育研究、運営等にわたる改革は着実に進展し、広く成果を上げてきている。「青森大学ルネッサンス」の改革の目標が次第に明確な形で達成されてきている。

青森大学の教育理念は、学則第１条第３項に、次のように示している。

本大学の基本理念は、次に掲げるとおりとする。

（１）青森の豊かな自然と文化の中で人間性と確かな教養を培い、社会に役立つ基礎学力、技術及び専門知識を身に付けさせるための実践的な教育を行う。

（２）教員と学生の親密なコミュニケーションを通じて、教員が個々の学生の能力を十分に引き出すための親身な指導を行う。

（３）大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す。

学則に示す基本理念は、教育研究等の活動全般に関わるものであるが、青森大学の使命を達成していくための教育活動の重要性にかんがみ、教育の在り方を中心に記述している。したがって、基本理念はそのまま教育理念であると言える。この教育理念は、学内各所に掲示し、教職員や学生だけでなく、外部から来学される方にも本学の教育の基本的な考え方が分かるようにしている。

このような教育理念を具体的に実現するために、本学は、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針を定めている。この三つの方針について、昨年度、抜本的な見直しを行い、今年度から実施している。この見直しは、青森大学のこれからの教育の在り方の方向を示す、重要な改革であった。全教職員が共通理解を図り、三つの方針に基づく教育改革を積極的に進めていくことが必要である。

１　見直し・策定の経緯と判断

平成２８年３月３１日に「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」が公布され、平成２９年４月１日から施行されることとなった。

この改正は，大学等が，自らの教育理念に基づき，育成すべき人材像を明確化した上で，それを実現するための適切な教育課程を編成し，体系的・組織的な教育活動を行うとともに，当該大学等の教育を受けるにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜を実施することにより，その使命をよりよく果たすことができるよう，全ての大学等において，その教育上の目的を踏まえて，「卒業の認定に

関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」（以下「三つの方針」という。）を策定し、公表することを求めるものであった。

改正後の学校教育法施行規則第１６５条の２は、大学に対し、当該大学、学部又は学科若しくは課程ごとに、その教育上の目的を踏まえて、①卒業の認定に関する方針、②教育課程の編成及び実施に関する方針及び③入学者の受入れに関する方針を定めることを求め、②の教育課程の編成及び実施に関する方針を定めるに当たっては、①の卒業認定に関する方針との一貫性の確保に特に意を用いなければならないと規定する。同時に改正された学校教育法施行規則第１７２条の２（大学の教育研究活動等の状況についての情報の公表）は、公表すべき情報に、第１６５条の２の規程により定める方針に関することを付加した（これまでは、入学者受入れの方針が公表すべき情報として明記されていた）。

文部科学省からの施行通知（高等教育局長発出）は、各大学が三つの方針を策定・公表する際の参考指針として中央教育審議会大学大学分科会大学教育部会が策定した、三つの方針の策定及び運用に関する「ガイドライン」を添付し、「各大学において、これも参考として取り組むことが期待される」と述べている。

青森大学は、従来から入学案内に入学者受入れの方針を示していたところ、平成２５年９月に、学内での議論を踏まえ、全学及び各学部の学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針及び入学者受入れの方針を策定し、公表した。これら３つの方針は、「青森大学ルネッサンス」に基づく、教育改革の一層の推進を考慮し、「生涯をかけて学び続ける力」、「人とつながる力」及び「自分自身を見据え、確かめる力」という３つの力を備えるべき力として明記するなど、青森大学の教育の方針を明確に示すものであった。

このような状況において、改めて、学校教育法施行規則の改正の趣旨にかんがみれば、三つの方針をさらに体系的に整理し、教学改革の目標をより的確に達成していくため、青森大学の三つの方針の見直しが必要と考え、検討を進めることとした。

策定に当たっては、学長が行う全学的な教学マネジメントの重要な補佐役である教学改革タスクフォースを中心に検討を進めた。教学改革タスクフォースには、教務委員会、FD 委員会、学習支援センター等の関連組織のメンバーや各学部の教学の担当者が加わり、全学の方針と各学部の方針の整合性を図り、全体として統一性のある形になるよう、随時、各学部に持ち帰って検討し、そして、その結果を持ち寄って全体の議論を進めるというように、相互の意思疎通・意見交換を大事にする形で、成案をまとめていった。

２　策定に当たっての基本方針

これまでの方針を見直し、策定するに当たっての考え方・進め方について、学長から次のように、基本方針を示した。

（１）これまでの青森大学の三つの方針の基本的な考え方を生かし、青森大学らしいものにする。

―青森大学ルネッサンスに基づく改革をさらに進展させるものとする。

（２）文部科学省通知の「ガイダンス」の趣旨を適切に読み取って取り入れるものとする。

―「ガイダンス」では、例えば、

①自らの教育理念の実現に向け、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなプログラムを通じて育成するか、という観点から、大学教育の入り口から出口までの教育の諸活動を一貫したものとして再構築し、効果的な実施をすることにより、大学として点検・評価を行い、その結果に基づい

て改革・改善を行い、その質を自ら保証する、内部質保証を教育活動において確立すること、
②卒業認定の方針が各大学の内部質保証のための PDCA サイクルの起点として機能するよう、「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確化して、どのような学修成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するかという方針をできる限り具体的に示すこと、
③教育課程の編成・実施の方針では、卒業認定の方針の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学習成果をどのように評価するのか、具体的に示すこと、
④入学者受入れの方針では、卒業認定の方針、教育課程の編成・実施の方針を踏まえ、入学前にどのように多様な能力を身に付けた学生を求めているか、入学後にどのような能力をどのようにして身に付けられる学生を求めているか、多様な学生を評価できるような入学者選抜の在り方について、できる限り具体的に示すこと、
などが示されている。
（３）全学の三つの方針を固め、各学部の方針は、全学の方針と整合性と統一性を保ちながら、各学部の特性に応じたものとし、全学及び各学部の方針は、学長の責任の下で決定することとした。

３　策定の手続き

三つの方針の原案は、教学改革タスクフォースにおいて、各学部との意見交換等を行いつつまとめ、平成２８年１１月の部長会において審議し、確認を得て、さらに、学長から、青森大学学則第５３条第４項の規定に基づき、各学部教授会の意見を求め、各教授会からの意見を得て、１２月１４日、学長が、「青森大学の卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針」を定めたものである。施行日は平成２９年４月１日とし、それまでの間必要な準備を進めることを周知した。

４　三つの方針の構成と概要について

（１）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）について、全学の方針を示し、続いて、総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部及び薬学部の方針を示している。
（２）全学の方針を踏まえ、整合性をとりつつ、同時に、各学部の特性を生かして、各学部の方針を示している。
（３）卒業認定・学位授与の方針は、「地域とともに生きる大学」かつ「学生中心の大学」という目標、学則第１条の「有能にして良識ある人材を育成し、文化の発展並びに人類の福祉に貢献するとともに、地域社会の向上に資すること」を目指し、教育を行うことを示し、学位授与は、

① 所定の期間在学すること、
② 本学の学位プログラムを修めること（各学部の方針では、基準となる単位数の習得と必修等の条件を満たすことを付加して明記）、
③ 専門的知識・技能を身に付けること、

かつ、

④ 生涯をかけて学び続ける力
⑤ 人とつながる力
⑥ 自分自身を見据え、確かめる力

「未来を拓く実践力」を培うための基盤的・総合的能力

を備える人物に対するものであるとし、

学位授与の可否の判定は、生涯をかけて学び続ける力、人とつながる力、自分自身を見据え、確かめる力、専門的知識・技能を活用する力の４つの観点を基に行うことを示している。これまでの方針と異なるところは、所定の期間の在学及び基準となる単位数の修得と必修等の条件を満たすことだけではなく、専門的知識・技能を身に付けることと、本学の３つの力を合わせた４つの観点を基に判定することとなったことである。３つの力や専門的な知識・技能の修得については、各教科の成績の評価の際に考慮されているが、卒業認定・学位授与の際に、改めて総合的な判定をすることとしたものである。

各学部の卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学部の特性に応じ記述している。薬学部以外の３学部は、３つの力に加え、４専門的知識・技能を活用する力を明示している。

薬学部は、４専門的知識・技能を活用する力を持ち、薬剤師として必要な資質を有するとして、５項目にわたり、次のとおり、薬剤師として必要な資質を示している。

① 薬の専門家として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を持ち、人の命と健康な生活を守る使命感・責任感及び倫理観を有する。② 医療人として必要なコミュニケーション・プレゼンテーション能力を修得し、医薬品の専門家としてチーム医療に貢献できる。③ 地域の保健、医療、福祉、介護の課題を理解し、問題発見・解決能力により、薬剤師として貢献することができる。④ 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集、分析でき、様々な体験から継続的に獲得した知識を、外部に発信できる。⑤ 医薬品適正使用の基盤となる科学を修得し、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理の実践に応用できる。

（４）教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる専門的知識・技能と３つの力を習得させるため、青森大学基礎スタンダード科目、専門教育科目、教職に関する科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講し、科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成し、カリキュラムの体系性を明示する。

その上で、教育内容、教育方法及び教育評価の方針を示している。

教育内容については、青森大学基礎スタンダード科目を「教養コア」「技能コア」及び「創成コア」から成る全学共通の教養教育として行うこと、専門教育については。専門分野の体系性に基づき学年・学期別の配当を行うこと、科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成すること、必要に応じ履修コース等を設けること、卒業研究又は卒業論文等を必修とすることを示している。

教育方法については、CAP 制を実施すること、履修科目数の上限を設けること、学生の主体的学修を支援できるように、アクティブ・ラーニング（学生の能動的な参加による、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び）等を積極的に取り入れること、少人数教育の実施、授業外学修の内容と時間をシラバスへ明示すること、一人ひとりの支援の充実のため、担任制等をとること、地域の高校、企業、自治体等と連携したプログラムを開発・実施することなどを示している。

教育評価については、卒業認定・学位授与の方針に照らし、各学部の学位プログラムの課程と学生個人の学習成果について、客観的データの分析やルーブリックによって評価し、改善を図ることを示している。

各学部の教育課程編成・実施の方針は、それぞれの学部の特性に応じ記述している。

（４）入学者受入れの方針は、青森大学が「地域とともに生きる大学」かつ「学生中心の大学」として、自らの未来を切り拓く実践力を備えた人間の養成を目指して教育を行っており、そのため、各学

部で学ぶ意欲があり、高等学校までの学習や経験を通じて基礎的知識を持ち、身近な問題に自ら取り組み、その結果を表現できる力を身に付けていることを重視すること、入学者の選考は、様々な個性、能力等を有する人物を受け入れることができるよう、多様な選抜方法を用意して行うことを示し、入学者の受入れは、

① 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

② 身近な問題について、知識や情報を基にして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

③ 希望する学部で主体的に学ぶ意志がある。

④ 学んだ知識や経験を社会で活かしたいという意欲がある。

⑤ 地域における社会的活動、文化・スポーツ活動等に取り組む意欲がある。

⑥ 各学部から求められる入学前教育に計画的に取り組むことができる。

という方針に基づき適正に行うとしている。

各学部の入学者受入れの方針は、それぞれの学部の特性に応じ記述している。例えば、薬学部では、化学、数学、語学を中心に高等学校の教育課程を幅広く修得していることを明示している。

５　三つの方針について重要な考え方

（１）新しい方針は、これまでの方針を発展させ、より充実した内容にして分かりやすくしたものである。これまでの教育改革の延長線上にあり、基本的な考え方は変わらない。改革をより適切に進めるためのものと考えなければならない。

（２）新しい方針は、平成２９年度の入学者から適用されることとなる（平成２８年度以前の入学者には、これまでの方針に基づいて教育課程や学位授与の考え方を示してきた）が、可能な限り、全ての学生に対し、新しい方針に基づく教育や評価ができるようにしなければならない。

（３）卒業認定・学位授与の方針が最も根幹であり、この方針の考え方を維持しつつ、必要に応じ、教育課程編成・実施の方針を修正・変更することを考えなければならない。総合経営学部は、平成３０年度から、事業マネジメント・会計コース及びスポーツビジネスコースに再編することとしているので、総合経営学部の教育課程編成・実施の方針は、平成３０年度から変更できるよう、平成２９年度中の検討が必要である。

６　三つの方針の実質化を目指して行うべきこと

策定された三つの方針を有効に機能させ、実質化していくため、全学の協力体制により、次のような課題に取り組んでいく必要がある。

（１）三つの方針は平成２９年度から実施されるものであり、平成２９年度の入学者に対しては、シラバスの記載への反映のほか、学生生活ガイドブックに卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針を記載している。今後、評価の考え方や卒業認定・学位授与の判定の基準を明確にし、さらに、カリキュラムマップ、ルーブリックの作成を進めていく必要がある。入学者受入れの方針については、青森大学の入試ガイドブックに記載し、受験生や保護者等が理解できるよう、周知を図っている。

（２）三つの方針が有効に機能し成果を上げるため、PDCA サイクルを確立していかなければならな

い。そのためには、何よりも、IR（Institutional Research）活動の充実が必要である。特に、学生の３つの力の達成度などを調査して、学修成果を可視化していくことが重要である。

本学では、本年度から、学校法人河合塾と株式会社リアセックが開発した、PROG（Progress Report On Generic Skills）テストを導入することとした。このテストは、大学生の汎用的能力（ジェネリックスキル）を把握するための標準的なテストとして、近年、多くの大学で利用されている。PROG テストはジェネリックスキルをリテラシーとコンピテンシーの両面から測定する。リテラシーは、実際に知識を活用して問題を解決することができるかを問うもので、情報収集力、情報分析力、課題発見力及び構想力という４つの能力を測定する。PROG テストの説明によると、実際に問題解決するには、さらに表現力及び実行力というステップが必要であるが、ペーパーテストになじまないので、表現力及び実行力は、大学自体が論文やレポート、発表など成果を総合的に評価すべきとのことである。コンピテンシーは、対人基礎力、対自己基礎力及び対課題基礎力という大分類の下に、親和力、協働力、統率力、感情抑制力など９つの中分類が構成され、さらに各中分類を構成する３３の小分類がある。PROG の結果は、学生個人と大学の双方に返却されるもので、学生個人が自分の行動計画を作り、大学が教育改善に生かすことができる（「学習成果の測定テスト―大学生のジェネリックスキルを測定する―　成田秀夫」「IDE 現代の高等教育 No.590 学習成果の可視化２０１７年５月号ｐ５５～ｐ５９」）。

PROG テストの結果を基に、３つの力の達成度を掌握して、教員の教授能力の向上と学生の付加価値の伸長を実現していくことが大きな課題である。

さらに、本学では、学生の出欠情報、履修申請、成績登録など学籍教務情報、シラバスや時間割などを管理し活用するため、「IT 化教育支援システム」を設けているが、平成３０年度から、三つの方針に適合し、学生カルテ（ポートフォリオ）などを含む、可視化と情報共有がこれまで以上に有効に機能することを目指し、新しい情報システムを導入する準備を進めている。

（３）教職員の研修の充実が重要な課題である。三つの方針について共通理解を図り、学生に対する教育指導や入学者選抜の成果を高めていくには。全ての教職員が教育方法の向上、教育内容の充実、評価の在り方の改善、学生の学習成果の可視化などについて、あらゆる機会を生かし、学び続ける必要がある。本年９月には、三つの方針を主題とする教職員研修会を行う予定である。

（４）青森大学として、評価の方針（アセスメント・ポリシー）の確立が必要である。評価については、入学者受入れの方針において、選抜方法などに関し、記述しているほか、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に、教育評価の項目を置き、学位プログラムの評価及び学生個人の教育評価について明示している。これらを横断的・総合的にまとめ、青森大学の評価の方針を策定することを目指し、検討を始めている。

７　３期目の大学機関別認証評価へ向けて

青森大学は、平成２９年度、２期目の大学機関別認証評価を受審している。大学機関別認証評価は、平成３０年度から第３期となる。公益財団法人日本高等教育評価機構が本年４月に改訂した、平成３０年度版の「実施大綱」及び「評価基準」によると、評価基準は、基準１．使命・目的等、基準２．学生、基準３．教育課程、基準４．教員・職員、基準５．経営・管理と財務、基準６．内部質保証が各大学共通の基準であり、加えて、各大学が独自基準を設定し、自己点検・評価を行うことが求められている。さらに、独自基準のほかに、大学が特筆したい特色ある教育研究活動や事業等を３つまで

記述することができることとなっている。第２期との大きな違いは、大学が行う自己点検・評価の検証を基礎とすることはこれまでどおりとしつつ、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを起点とする内部質保証機能制度を重視した評価制度へ転換したことであると説明されている。

３期目の認証評価へ向けて、青森大学の三つの方針の実質的な価値を高め、青森大学の魅力向上を進めていくことは、極めて重要な課題である。

学長の活動（平成２９年１月～６月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第５８回「平成２９年の幕開け」　第５９回「地域とともに」

第６０回「卒業」　第６１回「入学」　第６２回「五月の空と憲法」

第６３回「田園の風景」

評論「学びの温故知新」

第５７回「発達課題に応じた教育」　第５８回「性の指導をどうするか」

第５９回「素質と環境」　第６０回「学級編制の基準と教職員定数」

第６１回「これからの教育委員会」　第６２回「首長と教育委員会」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「アクティブ・ラーニングの陥穽」（平成 29 年 3 月 7 日号）

「情報化の進展と教育」（平成 29 年 5 月 2 日号）

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ひとこと」

「大学教育の重層性」（第 6572 号（平成 29 年 3 月 28 日））

「内外教育」（時事通信社）掲載の「ラウンジ」

「インターネットと教育」（第 6590 号（平成 29 年 6 月 13 日））

［社会的活動等］

日本イコモス国内委員会監事・第８小委員会委員長（研究会（広島原爆ドームのバッファゾーンについて）6 月４日、理事会 6 月 24 日）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会 3 月 7 日、6 月 6 日、6 月 19 日）

公益財団法人がん研究会評議員（評議員会 6 月 26 日）

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構理事（理事会 2 月 27 日、5 月 24 日）

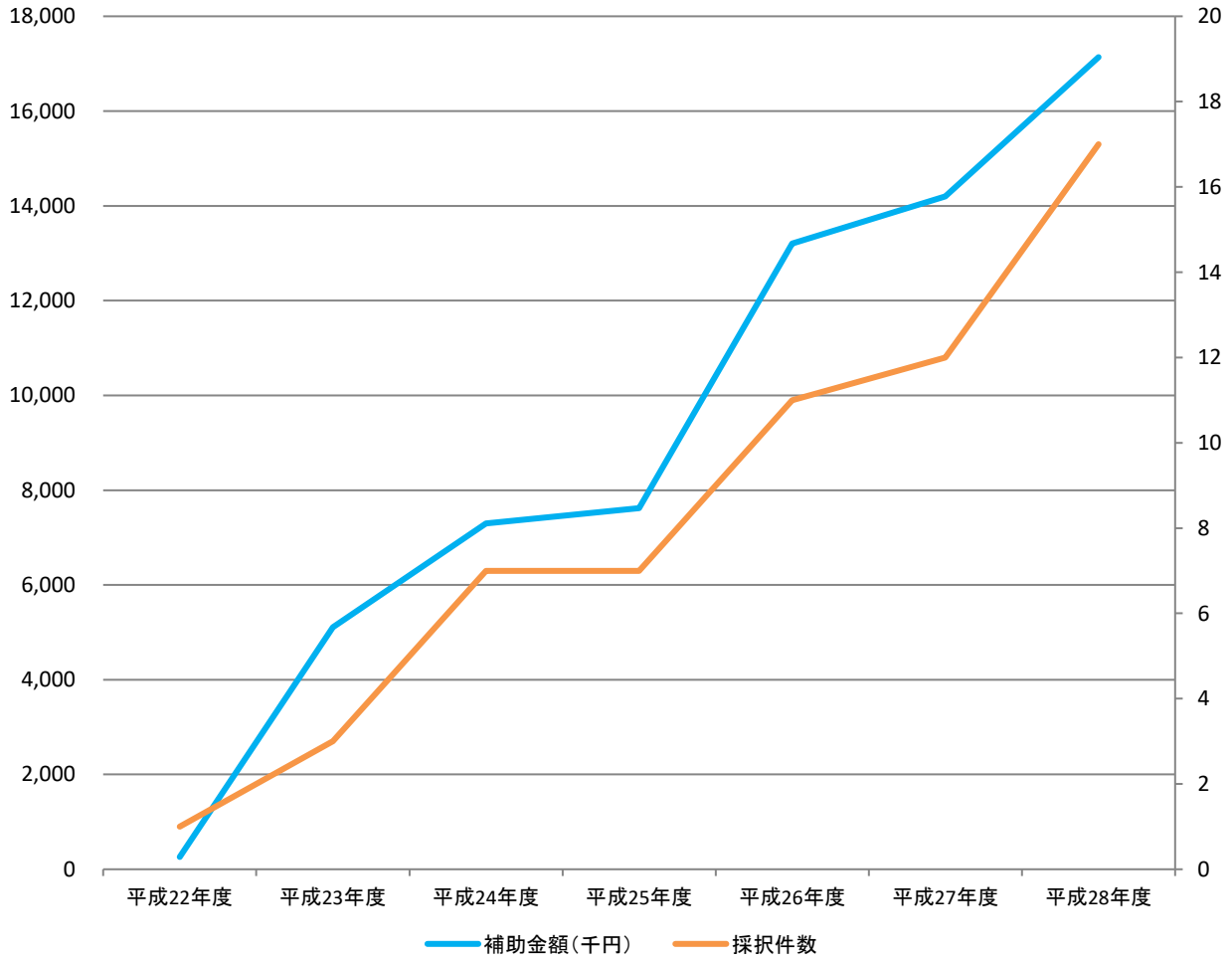
全　学　の　動　向

外部研究費等の取得状況について

文部科学省の事業である科学研究費助成事業の採択件数は、各大学で研究能力・実績を示す指標として重要視されています。近年、本学の研究者が関わる課題の採択件数及び補助金額は増加傾向にあり、平成 22 年度は 1 件（26 万円）であったものが、平成 26 年には 11 件にまで増えました。平成 29 年度は、採択件数では 15 件、助成額では確定分で 671.3 万円まで伸びました。6 月 30 日時点で一部は金額が未確定で、また、科研費以外の研究助成の決定時期は、4 月以降となる研究費も少なくないため、今後増える可能性があります。

研究課題及び助成額などは、外部研究助成金の獲得状況の概要に示された表のとおりです。

科学研究費の採択件数及び採択額の推移



※平成 29 年度は総額が未確定のため割愛

外部研究助成金の獲得状況の概要

文部科学省科学研究費助成事業

① 平成２９年度以前採択　科学研究費助成事業一覧　（研究種目別、経費は２９年度本学の分）

研究種目	学　部	氏　　名	研　究　課　題	研究期間	直接経費
基盤研究（B）	薬学部	岡島　史和（分担者：他学１名）	pH 環境を感知する OGR1 受容体ファミリーの作用機構と生体機能	平成 27～29 年度	¥1,300,000
若手研究（B）	総合経営学部	渡部　あさみ	先進諸国におけるﾎﾜｲﾄｶﾗｰ労働者の労働時間管理	平成 26～29 年度	¥0
	ｿﾌﾄｳｪｱ情報学部	紅林　亘	一般化位相縮約理論が拓く生体リズム現象の予測と制御に向けた新展開	平成 28～30 年度	¥1,000,000
基盤研究（C）	総合経営学部	岩淵　護（分担者：本学３名、他学１名）	取引費用モデルを活用したクラスターネットワーク形成と地域活性化に関する実証的研究	平成 27～30 年度	¥525,000
		石塚　ゆかり	日台韓の口コミ行動に関する対照研究－医療と観光サービスに対する評価を中心に	平成 28～30 年度	¥700,000
		吉川　昌則（分担者：他学２名）	アルペンスキーにおける高速ターン技術の実滑走計測・解析と定量的評価	平成 28～30 年度	¥650,000
	社会学部	渋谷　泰秀（分担者：本学１名、他学２名）	高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究	平成 27～29 年度	¥180,000
		中村　和生（分担者：他学２名）	初等・中等教育における「自然（現象）の科学的理解」の相互行為分析	平成 28～30 年度	¥550,000
	薬学部	中田　和一（分担者：他機関２名）	航空需要に対応する海上設置型ローカライザの設置条件に関する研究	平成 28～30 年度	¥340,000
				小計	¥5,245,000

他機関の分担分（平成２９年度の金額）

研究種目	学　部	氏　　名	研究課題・分担者名	研究期間	直接経費
基盤研究（B）	広島大学	由井　義道	人口減少期の都市地域における空き家問題の解決に向けた地理学的地域貢献研究　（櫛引素夫）	平成 27～29 年度	¥240,000
	東京工業大学	中尾　裕也	大自由度力学系のデータ駆動型縮約モデリング手法の確立とバイタルサインへの適用（紅林亘）	平成 29～32 年度	未確定
基盤研究（C）	奈良大学	吉村　治正	社会学的知見に基づく Web 調査の代表性の分析　（澁谷泰秀）	平成 27～29 年度	未確定
	秋田県立大学	渡部　論	高齢者の認知機能の相違とエゴ・ネットワークに現象する特殊詐欺脆弱性リスクの解明（澁谷泰秀）	平成 28～30 年度	¥728,500
	朝日大学	梅村　直己	口腔がん幹細胞の転移巣形成機構の解明　（大越絵実加）	平成 29～31 年度	¥400,000
	朝日大学	足立　誠	低酸素環境下における口腔癌のがん幹細胞に対する新規分子標的治療の開発　（大越絵実加）	平成 29～31 年度	¥100,000
				小計	¥1,468,500

	直接経費
科学研究費助成事業（15 件）　本学分の金額	¥6,713,500
合計	¥6,713,500

② 日本学術振興会から受けているその他の事業

事業名		代表者氏名	課題名	委託期間	経費
ひらめき☆ときめきｻｲｴﾝｽ		大越　絵実加	薬を創る薬剤師	平成 29 年 8 月 26・27 日	¥329,000

小計　　¥329,000

科学研究費助成事業に上記
1事業を加えた金額　　合計　　¥7,042,500
（１６件）

③ 科研費以外の研究（新規）

本学研究者	研究テーマ	今年度補助金額	助成財団・期間
経営学科 研究代表者 松本 大吾　講師 研究分担者 飛鳥由美子　講師	青森県における税理士事務所が職員に求める能力と資質に関する調査	258,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 29 年度助成）
社会学科 櫛引 素夫　教授	北海道新幹線を活用した青函圏の社会的・経済的な連携強化に関する調査と提言事業	780,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 29 年度助成）
薬学科 大上　哲也　教授	ミクロの世界へ～認知症の脳・神経細胞を顕微鏡で観察してみよう（子どもゆめ基金助成金）	295,000 円	独立行政法人 国立青少年教育振興機構
薬学科 大上　哲也　教授	高齢・認知症対応策に関する地域振興研究～認知症ドライバーの早期発見に関する事業	391,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 29 年度助成）
薬学科 大上　哲也　教授	第 4 回オレンジ文化祭～認知症の方々の作品展示会	191,000 円	青森学術文化振興財団 （平成 29 年度助成）
薬学科 大上　哲也　教授	医療機関・調剤薬局（保険薬局）の認知症早期発見の取組みに関する共同研究	300,000 円	株式会社　トータルブレインケア
計		2,215,000 円	6 件

④平成 28 年度青森大学研究プロジェクト

青森大学教育研究プロジェクトは、平成 26 年度から崎谷学長の主導により、学長裁量経費を充て、本学の教育研究を格段に推進していくため開始されたもので、本年度で 3 年目となる。本年度の教育研究プロジェクトは、下記の表に示されるとおり、研究推進部門が 8 件、教育改革部門が 3 件の採択となった。

これまでの教育研究プロジェクトで採択された研究の中から科学研究費補助金や外部研究補助金の採択につながる研究が複数あること、さらに学生が地域貢献活動や研究

活動に直接参加するプロジェクトが存在することなど、本学の教育研究の推進に大きく貢献している。本年度は、平成 28 年 12 月 21 日に中間発表会、平成 29 年 3 月 17 日に最終報告会を開催し、同年 5 月に最終報告書が完成した。

平成 28 年度 青森大学教育研究プロジェクト

研究推進部門

No.	プロジェクト名	代表者氏名	参加者氏名
1	食品成分の生活習慣病予防効果に関する研究	益見 厚子	岩船 裕志（薬学部5年生）、佐藤 伸（青森県立保健大学教授）
2	細胞内寄生性細菌に対するインターロイキン-33 が誘導する自然免疫細胞活性化作用の解析	福井 雅之	
3	キラルスルホキシドを用いた2点不斉アルドール反応の開発	中北 敏賀	鈴木 克彦、植木 章晴
4	ノシセプチンやその代謝物による記憶機能制御に関与する分子メカニズムの解明	三輪 将也	上家 勝芳
5	生物学的応用を指向した集積型ルイス a タンデムリピートの合成	植木 章晴	鈴木 克彦、中北 敏賀
6	後発医薬品のメーカーによる品質差異の比較検討	井沼 道子	三浦 裕也
7	バキュロウイルスベクターを用いたガンワクチン開発とガンに対する効果の解析	水谷 征法	水野 憲一、木立 由美 阿部 一生、五月女 雄一、筒井志帆（薬学部5年生）
8	北東北地域における光学産業の発展プロセスー技術移転と地場企業の創出を中心にー	沼田 郷	

教育改革部門

No.	プロジェクト名	代表者氏名	参加者氏名
9	企業および業界研究を通じた学生の就業意識の向上プロジェクトー活きた経営学の体得ー	中村 和彦	森 宏之
10	地域貢献活動と連携した授業展開の実践試行ならびに学生への効果の検証	櫛引 素夫	沼田 郷、坂井 雄介
11	青森いきいき脳健康プロジェクト（“高齢社会対応”地域密着型青森大学のブランディング）	大上 哲也	＊参加者多数のため申請書参照

平成 29 年度 青森大学教育研究プロジェクト

研究推進部門

No.	プロジェクト名	プロジェクト代表	メンバー
1	光学産業の形成・発展プロセスとそのメカニズム:北東北地域との比較研究	沼田郷(経教授)	なし
2	―青森県における介護労働者の人員確保・労働環境の是正に関する実証研究―	宮川愛子(社講師)	渡部あさみ(経講師)
3	後発医薬品のメーカーによる品質差異の比較研究	井沼道子(薬助教)	三浦裕也(薬教授)、石岡憂聖(薬 5 年)、乳井涼(薬 5 年)、杉原啓介(薬 5 年)
4	加齢関連代謝疾患を予防する生理活性物質の探索	大越絵実加(薬准教授)	なし
5	糖加水分解酵素阻害剤の効率的合成	鈴木克彦(薬教授)	今柾人、中北敏賀(薬助教)、植木章晴(薬准教授)
6	ジハロアルコールと種々の求核剤との付加反応の検討	中北敏賀(薬助教)	鈴木克彦(薬教授)、植木章晴(薬准教授)
7	機能性身体症候群(FSS)モデル動物の確立	永倉透記(薬教授)	三輪真知子(薬)、吉田未来(薬)、澤野大地(薬)、荒谷奨(薬)、三浦玲奈(薬)、乳井貴史(薬)
8	アンギオテンシンⅡ受容体遮断薬(ARB)の使用状況と脳出血リスクに関する検討	三浦裕也(薬教授)	井沼道子(薬助教)、杉原啓介(薬 5 年)、石岡憂聖(薬 5 年)、乳井涼(薬 5 年)
9	がんワクチン抗原としての GRP19 の有効性の検討	水谷征法(薬助教)	水野憲一(薬教授)、笹田雅姫(薬 5 年)、吉田彬乃(薬 5 年)、吉岡俊(薬 5 年)
10	記憶機能制御に関する新規ノシセプチン結合タンパク質の解析	三輪将也(薬助教)	上家勝芳(薬准教授)
11	地域食品成分の生活習慣病予防効果の評価研究	益見厚子(薬教授)	佐藤伸(青森県立保健大学教授)、薬学部5年生2名

教育改革部門

No.	プロジェクト名	プロジェクト代表	メンバー
12	体験学習を通じた経験値を高めるための教育プログラムの開発	佐々木豊志(経教授)	岩淵護(経准教授)、小林英俊(社教授)、藤公晴(社教授)
13	企業および業界研究を通じた学生の就業意識の向上プロジェクトー活きた経営学の体得ー	中村和彦(経准教授)	森宏之(経教授)、佐々木豊志(経教授)、佐藤静香(経准教授)、飛鳥由美子(経講師)

14	学生の主体性に合わせた地域貢献・学内活動の構築・支援、および学修活動との連携に関する研究	櫛引素夫（社教授）	沼田郷（経教授）、坂井雄介（ソ准教授）
15	青森いきいき脳健康プロジェクト 2017（“高齢社会対応”青森大学のブランディング）	大上哲也（薬教授）	河越眞介（薬研究生）、大上研究室所属の学生並びに担任の学生、地域貢献センター（沼田郷（経教授）並びに沼田ゼミ学生）、白岩貢（ソ准教授）、認知症に関心のある学生（学部問わず）、学外スタッフ

出張講義の実施状況

平成 29 年 1 月以降の出張講義の実施状況は以下のようになっています（一部、予定を含む）。

NO	依　　頼　　先	講義日	氏　名	学　科	講義テーマ
1	むつ市民生委員児童委員協議会	2017/1/6	船木昭夫	社会学部	相談支援者に問われるもの -利用者の思いをくみ取るために-
2	横内小学校	2017/1/12	角田均	ソフトウェア情報学部	SNS の危険性及びその防止
3	青森地方気象台	2017/2/14	櫛引素夫	社会学部	気象台職員を対象とした地域防災に関する勉強会
4	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」	2017/2/20	田中志子	社会学部	障がい者差別解消法
5	あおもり若者プロジェクト クリエイト	2017/3/12	櫛引素夫	社会学部	成果報告会 コメンテーター
6	あおもり思春期研究会	2017/3/25	船木昭夫	社会学部	思春期におけるコミュニケーション
7	公益社団法人青森法人会経理研究会	2017/4/18	櫛引素夫	社会学部	新幹線ネットワークを考える
8	沖館市民センター	2017/4/22	中田吉光	総合経営学部	元気あっぷる体操
9	平内町教育委員会	2017/8/30	大上哲也	薬学部	いきいき脳健康教室
10	黒石市	2017/9/21	櫛引素夫	社会学部	地域で高める防災力
11	三戸郡小・中学校教頭会	2017/11/24	崎谷康文		これからの学校教育

12	青森県身体障害者福祉協会	2017/9/2、10/1, 10/15、11/5	藤林正雄	社会学部	傾聴を学ぶ

大学の行事（平成 29 年 1 月～6 月）

・3 月 18 日　　学位記授与式
・4 月　2 日　　入学式
・5 月 20 日　　第 9 回学びの森市民セミナー
・5 月 26 日　　寺山修司忌
・6 月 17 日　　第 1 回オープンキャンパス

［青森商工会議所と意見交換会］

平成 29 年 2 月 24 日、青森商工会議所において、青森商工会議所会員企業様を対象とした、本学の教育の説明と意見交換の会が開催されました。

はじめに、崎谷学長より本学に関する全体的な説明を行い、続いて鈴木教務担当学長補佐より本学の教育に関する様々な取組みを説明しました。

次に、学部教育について、経営学部からは来年度総合経営学部に改称すること、企業と共催したコンテストで最優秀賞を受賞し全国大会に出場したこと、他にも様々なコンテスト等でも高い評価を得ていることなどを説明しました。社会学部からは地域に貢献できる人材を育てる教育の説明に続いて、実際に平内町や今別町、幸畑地区などで行われている各プロジェクトを紹介しました。ソフトウェア情報学部からは基礎から段階的にステップアップする教育に続いて、地域連携研究の新たな取組みとして学生による学会での研究成果発表などを紹介しました。薬学部からは薬剤師の数について、薬剤師養成校がある都道府県の中では本県が一番少ないことを挙げ、今後も優れた薬剤師を輩出していくことを約束しました。また、薬学部の活動として薬剤師を目指す中高生のための薬剤師体験セミナーについて説明しました。最後に、本学の就職状況について、ここ数年間のデータをもとに県内外の就職率、就職先などについて説明しました。

質疑応答・意見交換では本学と企業との連携に関する双方からのお願い、カリキュラム・授業科目についてのご質問、薬剤師人口増加に関するご協力など、大変貴重なご意見・ご要望をいただきました。すべて、今後の教育に反映させていただきます。

今回の意見交換の会には 10 を超える企業の経営者様にご参加いただきました。また、年度末のお忙しい中、事前アンケートにもご回答いただきました。

［県内私立大学・短期大学共同 SD 研修会に参加］

平成 29 年月 17 日に、青森大学と青森明の星短期大学の共催で「青森県内私立大学・短期大学共同 SD 研修会」が開催されました。(会場：青森明の星短期大学)

青森明の星短期大学の石田学長による挨拶のあと、講師の日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターの谷地明弘センター長による講演が行われました。

「私立大学・短期大学の現状と課題」と題しての講演では、私立大学・短期大学が置かれている現状や 18 歳人口の減少に影響を受けている定員充足率の減少などをはじめ、問題点や取り組むべき課題について話されました。参加者たちは、熱心にメモを取り、谷地センター長の話を聞いていました。

終わりに、本学の崎谷学長が、定員確保や経営改革などについて大変参考になる内容だったと挨拶し、閉会しました。

［191 人に学位記授与］

平成 29 年 3 月 18 日、本学正徳館において、平成 28 年度学位記授与式が行われ、経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部・薬学部の卒業生 191 名が幸畑の学び舎を巣立ちました。

はじめに、各学科長より卒業生全員の名前が読み上げられ、崎谷康文学長より各学部代表に学位記が授与されました。

学長式辞で、崎谷学長は「5 年前に青森大学の学長に就任し、全ての教職員とともに、教育の改革・改善を進めながらみなさんのすばらしい成長を学長として実感し、今、青森大学のキャンパスには活気があふれているのは、みなさんが積極的に活動してきた成果であり、成長ぶりを本当にうれしく思っている」述べました。また、生涯をかけて学び続けていき、人間として成長していくことを目指し、「置かれた場所で咲きなさい」という渡辺和子先生の言葉を胸に努力を続けることと、「冒険心」が正しく発揮できるようにするため、日頃から確かな訓練と学びと思考を積み重ねていくことが大切であることを、卒業生へのはなむけに贈りました。

さらに、あと 1 年で青森山田学園が設立 100 年、青森大学が 50 年を迎えることに向けて、「みなさんが青森大学の卒業生でよかったと感じてくださるよう、青森大学がますますきらりと輝くよう、教育研究の充実に努めていくことを誓う」と述べて、お祝いの言葉を締めくくりました。

続いて青森山田学園岡島理事長よりご祝辞をいただき、最後に出席者全員で寺山修司作詞の校歌「若者よ 若者よ」を斉唱して式を締めくくりました。

［「じょっぱり経済学」で協定更新］

平成 28 年 4 月から実施してきた「じょっぱり経済学」（国際ロータリー第 2830 地区＆青森大学連携寄付講義）を、平成 29 年度も引き続き実施するにあたり、3 月 21 日、青森大学と国際ロータリー第 2830 地区の連携協定の更新式が行われました。本協定は、具体的な講義計画をもとに本学全学部の学生を対象とし、単位を認定する講義を実施する内容となっており、2017 年度は 15 回を予定し、一般受講生も募集しています。

崎谷学長と国際ロータリー第 2830 地区長嶺ガバナー

「じょっぱり経済学」
（国際ロータリー第 2830 地区＆青森大学連携寄付講義）
日時：毎週水曜日／14 時 40 分～16 時 10 分
場所：青森大学図書館新館３階視聴覚室

（講義日・講師名・所属RC・所属・テーマ）
①4月5日：鐘ヶ江 義光氏（八戸東・(有) かねがえ)『今、世界があなたを待っています』
②4月12日：源新　和彦氏（八戸北・(株) アケア)『水とビジネス』
③4月19日：相徳　公正氏（青森・青森朝日放送（株))『テレビの現状と将来について』
④4月26日：最上　伸子氏（青森モーニング・(株) 鑑定アリスト)『地価について考えよう』
⑤5月10日：佐藤　健一氏（青森・青森ケーブルテレビ（株))『ケーブルテレビ事業の経営』
⑥5月17日：松山　栄一氏（鶴田・(株) 昭栄工業)『人生打つ手は無限』
⑦5月24日：北山　輝夫氏（八戸北・三八城税理士法人)『生き残る経営』
⑧5月31日：源新　郁子氏（八戸北・(株) グランフォート)『伝える難しさと伝わる喜び』
⑨6月7日：大柳　繁造氏（青森・青森県立三沢航空科学館)『零戦を経済学的に見る』
⑩6月14日：鳴海　孝仁氏（青森北東・社会保険労務士鳴海事務所)
『働くときに知っておきたい基礎知識』
⑪6月21日：柴田　文彦氏（むつ中央・(株) 柴田組)『仕事　遊び　ボランティア』
⑫6月28日：木村　由美氏（弘前アップル・メナード化粧品弘前土手町店フェイシャルサロン)
『「内面美容」を磨き、楽しい人生を！』
⑬7月5日：福澤　稔氏（弘前アップル・企業組合リーフ印刷工房)『巨大アップルパイについて』
⑭7月12日：野坂　篤司氏（三沢東・(有) 道経塾)
『ありがとうの経済学～人生計画設計図の作り方～』
⑮7月19日：長嶺　康廣氏（八戸南・長嶺康廣税理士事務所)『職業倫理』

［328人迎え平成29年度入学式］

平成29年4月2日（日)、本学第2体育館（正徳館）において、平成29年度の入学式を行いました。今年度は、1年生が、総合経営学部129名、社会学部90名、ソフトウェア情報学部51名、薬学部50名の計320名と、編入学生8名の合計328名が入学しました。

式では、328名全員の名前が呼ばれた後、崎谷学長により入学が許可されました。式辞では、崎谷学長は「大学は学問を通じて人間形成を図る場です。積極的に準備して授業に主体的に参加して、しっかりと考え、新たな課題に挑戦できる実践力を備えてほしい。書物の森に出かけ、学びの舟でこぎ出し、大きく成長してください。」と述べました。また、学校法人青森山田学園の岡島理事長からも祝辞が述べられました。

新入生代表宣誓では、薬学部の瀬戸衣織さん（遺愛女子高校出身）が、「自ら学び、考え、行動し、問題を解決する能力を身に付け、自己形成に励み、鍛錬し続けることを誓います」と、力強く宣誓しました。

入学式を終えた新入生たちは、体育館前で記念写真に収まるなど、新生活に期待を膨らませていま

した。

［第９回学びの森市民セミナー「数える，列挙する，探し出す」］

第９回学びの森市民セミナーが平成 29 年５月 20 日に本学記念ホールで開催されました。本セミナーは青森明の星短期大学との共催で、今年で５年目に入ります。10 月には青森明の星短期大学で開催が予定されております。

当日は快晴に恵まれ、本学学生と青森明の星短期大学の学生を含む 300 名近くの聴衆が参加しました。今回は青森商業高校の生徒も駆けつけてくれました。講演は名城大学教授の山本修身先生に「数える，列挙する，探し出す―コンピュータはどうやって計算しているのか―」という演題でご講演いただきました。身の回りの問題を解くのに如何に膨大な計算量が必要なのか、ビデオによる「おねえさん問題」を具体例に分かりやすく説明をしていただきました。

当日は、ご挨拶をいただいた崎谷学長をはじめ本学の一般教員の方々も参加され、また事務局長以下、本学事務局の多数の職員の支援を受け盛会のうちに終了することができました。また、青森明の星短期大学の学生の移動には本学園のスクールバスがその任務にあたりました。

［第 24 回寺山修司忌］

第 24 回寺山修司忌が平成 29 年５月 26 日、本学４号館前校歌歌碑前で行われました。

寺山修司忌とは、本学の校歌を作詞した寺山修司氏の命日（5 月 4 日）に合わせ、毎年５月に寺山氏を偲ぶ会として行われており、歌碑を建立した 1994 年から数えて今年で 24 回目を迎えます。

この日は、本学総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部の１年生 320 人と、関係教職員、来賓等合わせて約 360 名が寺山氏を偲び黙祷を捧げ、崎谷康文学長及び学友会執行部代表のソフトウェア情報学部２年小友彩さんの挨拶に続いて、教員、学生代表、御来賓の皆様による献花を行いました。

続いて文芸部の学生による寺山氏の作品の朗読が行われ、最後に参加者全員で校歌「若者よ 若者よ」を斉唱しました。

式典終了後、朗読家の今ゆき子さんをお迎えして、第二部が行われ、「きらめく季節の出会い　―寺山修司に出会う―」と題して、６人の演劇部員が寺山修司作品を朗読しました。

教務・学生課

［カーリング世界選手権で青大生が活躍］

世界女子Ｂカーリング選手権大会が1月３日からスウェーデンで開かれ、ソフトウェア情報学部2年の田中美咲（青森東高校卒業）がスキップを務める「青森ユース・女子代表チーム」が、第3位となりました。

２月に韓国・平昌で行われる世界ジュニアカーリング選手権の出場が決定しました。田中選手は「またメダルが獲れるように頑張りたい！」と静かに語ってくれました。

［セブ島短期留学・語学研修］

平成 29 年度から、グローバル S 短期留学制度がスタートしました。その第一期生となる 7 人が 2 月 12～26 日の 2 週間、フィリピン・セブ島で語学研修を行いました。海外が初めてという学生がほとんどで「あー緊張するー！！」といった声も聞かれましたが、英語の学習に加え、スノーケリングなどのアクティビティを体験し、無事に笑顔で帰国しました。

［MOS の全国代表選考に進出］

平成 29 年 4 月 20 日、第 15 回 MOS（Microsoft Office Specialist ）世界学生大会 2017 の各部門入賞者が発表され、日本全国から延べ 4 万 9 千人を超える学生がエントリーした中で、社会学部社会学科 4 年の前田安夢呂さんが大学・短期大学部門 PowerPoint 第 3 位に輝きました。

6月 30 日に表彰式が東京で行われ、アメリカ・カルフォルニア州で行われる世界大会に向けて日本代表選考の 2 次審査に進みましたが、惜しくも世界大会出場は逃しました。

［再生・サッカー部が県大会優勝］

平成 29 年度、本格的に復活した青森大学サッカー部は、青森県大学・高専サッカーリーグで6勝1分の成績を収めて、優勝を飾りました。初陣となる 4 月 23 日の八戸学院大戦、2－0 でで快勝し、波に乗りました。前年度の優勝チームである八戸学院大を相手に、山本雄生、伊沢太志がそれぞれ得点を決め、無失点で勝ち切りました。得点王に伊沢太志選手（8 点、総合経営1年、出身校・青森山田高校）が輝きました。

5 月の東北大会では初戦、岩手県立大を 2-0 で下しました。2回戦は富士大学に惜しくも敗れました。

［第 65 回東北学生剣道選手権大会、第 51 回東北女子学生剣道選手権大会］

平成 29 年 5 月 14 日に宮城県塩釜市・塩釜ガス体育館で開かれた第 65 回東北学生剣道選手権大会、第 51 回東北女子学生剣道選手権大会に、本学より男子 8 名、女子 3 名の選手が出場し、全国大会の出場権をかけて戦いました。その結果、三上克弥（経営学部 4 年・五所川原第一高校出身）が第 3 位、向谷地史和（同・三沢高校出身）が第 13 位の成績を収め、7 月 23 日に大阪府立体育会館で開催される、第 65 回全日本学生剣道選手権大会に出場しました。

［始動・ハンドボール部が春季リーグ戦で2部昇格］

平成 29 年度から新入部員 12 名が入り本格始動した本学ハンドボール部は、平成 29 年 5 月 12 日（金）～16 日（火）に仙台市・宮城野体育館ほかで開かれた平成 29 年度第 52 回東北学生ハンドボール春季リーグ戦大会で男子三部リーグを勝ち抜き、入れ替え戦では見事二部昇格という結果を残すことができました。

【男子三部リーグ】

◎東北学院大学工学部 6　(2-16 4-18)　34 青森大学

◎東北工業大学 13 (5-9 8-9) 18 青森大学

◎青森公立大学 12 (8-20 4-16) 36 青森大学

【男子二部三部入れ替え戦】

◎弘前大学 14 (8-13 6-19) 32 青森大学

➡二部昇格

【男子三部リーグ得点王】

◎小野雄輝 22 点（総合経営学部 1 年 出身校：青森商業高校）

［第 65 回青森県春季剣道選手権大会］

平成 29 年 5 月 27 日 （会場・カクヒロスタジアム／青森市民体育館）に開かれた第 65 回青森県春季剣道選手権大会で、青森大学剣道部は下記の成績を収めました。

◎一般団体

優　勝：青森刑務所

準優勝：県警機動隊A

第3位：青森大学A・県警機動隊B

◎個人戦

三段・四弾（60歳以下）の部

第3位：三上克弥（経営学部4年・五所川原第一高校出身）

女子18歳～30歳未満の部

優　勝：武久智咲（経営学部2年・八戸ウルスラ学院高校出身）

第3位：三上奈緒（ソフトウェア情報学部2年・青森商業高校出身）

［バレーボール部前期試合結果］

① 第５０回東北大学バレーボール男子１部リーグ

４月２２日～５月２１日　　４勝６敗（６位）

個人賞　社２６００６　有馬佑太　ベストスコアラー賞

② 青森県春季バレーボール選手権　２位

６月１１日　青森市民体育館

③ 国体青森県予選会　３位

６月１８日　青森中央高校
社２６００６　有馬佑太
社２８０３２　天間涼太
社２８０１８　佐藤陸善
上記３名が成年男子青森選抜に選ばれる。
④ 東日本インカレ　１回戦　青森大学０－３早稲田大学
６月２２日　東京都港区スポーツセンター
⑤ 天皇杯・皇后杯青森予選会
７月８日～９日　マエダアリーナサブ
以上前期試合結果並びに予定。（青森大学バレーボール部監督　齋藤直人）

［学業優秀学生を表彰］

青森大学では、2 年次終了時（薬学部については 2 年次終了時及び 4 年次終了時）に特に優秀な成績を修め、かつ、人物的に優れた者として認められる個人、学術研究活動において、特に顕著な業績を挙げたと認められる個人を表彰する制度を実施しています。

4 回目となる平成 29 年度青森大学学業優秀学生表彰式が 5 月 31 日行われ、崎谷学長から賞状と副賞が贈られました。

≪平成 29 年度青森大学学業優秀学生表彰者≫
総合経営学部３年　浅水　幸樹さん
社会学部３年　藤本　樹さん
ソフトウェア情報学部３年　梅原　稜さん
薬学部３年　久保　譲治さん
薬学部６年　工藤　千佳子さん

［準硬式野球部が東北地区春季リーグ戦優勝、全国大会へ］

青森大学準硬式野球部は、平成 29 年 6 月 18 日に行われたリーグ最終戦で、福島大学に 4 対 3 でサヨナラ勝ちし、3 年ぶり 2 回目の優勝を果たしました。

櫻井監督は「2 連戦の初戦を落とし、2 連敗で 2 位転落の状況でした。序盤は劣勢でしたが、焦るな、慌てるな、とみんなで確認し、1 点取れば流れが必ず来ると信じて、選手たちは最後まで諦めませんでした。これがサヨナラ勝ちにつながったと思います。本当に、選手たちがよくやってくれました」と語りました。

準硬式野球部は、8 月 21 日から香川県で開催される全日本選手権に出場します。

［平成 29 年度第 1 回オープンキャンパスを開催］

平成 29 年 6 月 17 日、今年度 1 回目となるオープンキャンパスを開催しました。

参加した高校生は学生スタッフによる全体説明のあと、希望する学部に分かれて模擬授業や実習に参加し、大学での学びを体験しました。30 人を超える学生スタッフとの座談会「在学生と話そう！」では、授業のこと、部活動やサークル活動のこと、日常生活のこと、アルバイトのことなど、大学生活について疑問に思っていたことを質問し、学生スタッフは自身の経験をもとに色々アドバイスをしていました。

【総合経営学部・社会学部・ソフトウェア情報学部】

〇大学案内

〇模擬授業

≪総合経営学部≫

経営学を知ると、違った世界が見えてくる
～経営学と共に青森を知ろう・学ぼう・楽しもう！～

≪社会学部社会学コース≫

地域・青森を聞く、語る、知る

≪社会学部社会福祉学コース≫

「生きやすい地域」を考える

≪ソフトウェア情報学部≫

地域産業と密着したＣＧ・ＣＡＤの世界

○在学生と話そう！（学生スタッフとの座談会）

○保護者説明会

○個別相談会

【薬学部】

○創薬体験

○保護者説明会

○個別相談会

○薬学部紹介

○薬剤師のお仕事紹介

［初の「あおりんプロジェクト」公募、決定］

青森大学は平成 29 年度、さまざまな活動に意欲を持つ学生たちを支援するため、初の「あおりんプロジェクト」を公募しました。①教育・研究、②地域貢献、③キャンパス、④イメージアップ、⑤その他－の５部門を設けて、個人の活動には 5 万円、団体は 10 万円を上限として助成する仕組みです。本学の学生、または本学の学生が中心となった団体（部・サークル・ゼミを基盤とした学生団体の応募も可能）であることが応募資格で、採択されたプロジェクトは経過報告書を提出する義務があり、活動内容と結果は青森大学ホームページで公開します。

青森大学学生活動支援制度

－ あおりんプロジェクト －

地域とともに生きる青大生のための支援制度

あなたのやる気を応援します！

≪応募資格と条件≫

本学学生又は本学学生が中心となった団体（部・サークル・ゼミを基盤とした学生団体での応募も可）の企画及び実施であること。教員の支援があること。
採択されたプロジェクトは、経過報告書の提出、報告会へ参加すること。また、その活動内容と結果は大学ＨＰで公開します。

≪応募内容≫

①教育・研究部門
②地域貢献部門
③キャンパス部門
④イメージアップ部門
⑤その他部門

≪助成額≫

個人：上限５万円程度
団体：上限 10 万円程度

≪募集説明会≫

第１回　平成 29 年５月 11 日（木）16：30　5105
第２回　平成 29 年５月 12 日（金）16：30　5105

≪応募期間≫

平成 29 年５月 15 日（月）～26 日（金）17 時まで

≪応募方法≫

応募要項をよく読み、企画申請書に必要事項を記入の上、教務・学生課に提出してください。
応募要項・企画申請書は大学ＨＰよりダウンロードか、または教務・学生課で配布します。

≪審査方法≫

書類審査及び、選考委員へのプレゼンテーションを実施し、採択します。
※プレゼンテーションは 6/2(金) 予定。審査結果についてはＨＰ及び掲示板でお知らせします。

≪問合せ≫

制度・応募に関する問合せ、相談は、事務局教務・学生課、地域貢献センター、学習支援センターまで

5 月 16～26 日の公募期間を経て、6 月 2 日に 6 件の応募者がプレゼンテーションを実施し、厳正な審査の結果、以下のプロジェクトが採択されました。

◎青大農園プロジェクト

◎忍者アクロプロジェクト

◎アロマ調香プロジェクト

◎青大盛上げるプロジェクト

◎青森大学アカペラプロジェクト

教務委員会

[「三つの方針」全学説明会]

平成 28 年 12 月 14 日付で新しく策定された青森大学の三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）について、全教職員を対象とした説明会が 2 月1日に行われました。

はじめに崎谷学長より、策定の経緯や基本方針について説明があり、続いて鈴木教務部長より具体的な取組みなどの説明がありました。

新しく策定された三つの方針は、当ホームページから閲覧できます。

http://www.aomori-u.ac.jp/guide/diploma-curriculum-admission-policies2/

青森大学付属総合研究所

[高齢者の特殊詐欺予防へシンポ開催]

平成29年1月21日、高齢者犯罪研究会、青森商工会議所と共催して、青森市の「新町キューブ」において、シンポジウム「高齢者の特殊詐欺被害の減少を目指して」を開催しました。大学、警察、民間代等の研究者など8人の専門家が、最近の被害の実態や傾向、心理学、社会学、犯罪学等からの研究成果、被害防止のための実務や新しい手法の紹介などについて発表し、高齢者の特殊詐欺被害の減少に向けて、多角的な議論が行われました。

秋田県立大学の渡部諭教授の「高齢者の特殊詐欺被害の減少を目指して：シンポジウムについてのご案内」に続き、丹羽貴彦青森県警生活安全課課長補佐が青森県の特殊詐欺被害が昨年は2億円を超えたことなどを紹介し、島田貴仁科学警察研究所犯罪予防研究室長は、特殊詐欺により、個人が財産を失い、後悔や人間不信に陥るだけでなく、若者に犯罪に手を染めさせたり、他の犯罪へ悪用されたりして、地下経済を潤すこととなるとし、子や孫を守りたい動機が班員の味方となるので、前兆段階での抑止が重要であることなどを報告しました。

甲子園大学の上野大介助教の「高齢者の情動特性から詐欺予防を考える」、大阪大学人間科学研究科の大工泰祐氏の「海外における詐欺研究の現状」の発表に続き、澁谷泰秀本学社会学部長が「高齢者の心理特性と特殊詐欺の関係性について」発表しました。澁谷学部長の研究発表は、高齢者の心理学的特性の研究の流れから入り、無意識で自動的努力が不必要なシステム1と、意識的で論理的努力が必要なシステム2に心理学的プロセスを分けると、システム1のみで対処すると特殊詐欺犯罪の犠牲となる可能性が高く、システム2を用いることで特殊詐欺犯罪を防ぐことができる可能性があること、自己効力と特殊詐欺に対する脆弱性を調べると、高齢女性では、行動の積極性が高く、失敗への不安が低い場合に脆弱性との相関が特に高いことを明らかにするもので、会場の注目を得ました。

さらに、シニア消費者見守り倶楽部の岩田美奈子氏の「特殊詐欺撃退への取り組みー遮断の活動を通じてー」、森俊明（株）リバティ・イノベーション代表取締役の「スマホによる高齢者の特殊詐欺被害を予防するためのシステムについて」の発表があり、最後に、渡部諭教授が、高齢者に対する特殊詐欺はいわば伝染病のようなものであるから、早期発見・早期予防が重要であり、高齢者個人のリスク認知能力を高めることに加え、自治体、大学、企業、関連機関等が連携を図り、社会全体がエビデンスに基づく対策を確立する必要があると、これからの方向を示唆して、シンポジウムが終了しました。シンポジウム会場では発表の他に、青森大学と包括的連携協定を締結している特定非営利活動法人青森県消費者協会の協力で、同協会が行っている特殊詐欺犯罪防止活動に関する展示やマスコットである「テルミちゃん」が登場し、シンポジウムの雰囲気を盛り上げました。また、青森県社会福祉協議会のご協力で、同協議会が実施している「福祉安心電話」の展示や活動の動画をコンピュータで流すなどの情報提供が行われました。更に、青森県銀行協会のご協力で、みちのく銀行が特殊詐欺予防のために用いている注意喚起の掲示物などの展示がなされ、地域ぐるみの活動が展開されていることが紹介されました。

会場の参加者からは、青森において、高齢者に対する特殊詐欺という今日的な課題について、学術的な見解から実践的な方策論まで、多彩な分野の発表者が、一般市民にもわかりやすく語りかけていくシンポジウムが開催されたことを評価し、今後の研究や対策の一層の進展を期待する声が多く聞かれました。

青森大学は、社会学部をはじめ、文理の分野の研究者が高齢者問題に関わる研究を長年行ってきており、これからも、地域社会への貢献ができるような研究を、多くの関係機関等の協力を得ながら進めていきたいと考えています。（青森大学ホームページより）

［新幹線フォーラム開催］

青森大学付属総合研究所（所長・崎谷康文学長）と社会学部・櫛引研究室は平成29年１月 28 日、青森市の新町キューブで、新幹線フォーラム「北海道新幹線は青函圏をどう変えるのか」を開催しました。函館商工会議所の永澤大樹氏と、北海道・木古内町の「道の駅　みそぎの郷　きこない」の浅見尚資氏が、地域政策や観光対応に関する基調講演を行ったほか、櫛引素夫教授が、北陸新幹線との対比や、青森・函館・北斗市の市民意識調査について報告しました。

脳と健康科学研究センター

［短命県克服へセンター発足］

医療法人雄心会と学校法人青森山田学園は平成 29 年１月 28 日に締結した基本契約に基づき、5 月１日、青森新都市病院内に「青森大学 脳と健康科学研究センター」を設置しました。

人間にとって身体や精神が健やかであることは、極めて重要な意味を持っています。特に人間の脳の働きは、身体や精神のみならず、社会において健康な生活を送る上で、大きな影響を与えています。

脳と健康科学研究センター（脳研センター）では、脳を活かすことによって健康を増進するという考え方の下、短命県を克服し健康社会を築いていく拠点を担うことを目指し、脳と健康に関する研究を進めていきます。健康科学分野の研究企画や開発などの研究活動、研究成果の広報普及や教育活動、青森大学薬学部での教育活動、国内外の研究機関、他大学等と連携した研究交流活動を進めます。

また、脳研センターの活動に関しては、地域医療への貢献を理念に掲げる医療法人雄心会が、青森大学に設置する研究教育機関を継続的に受け入れ、学校法人青森山田学園と協力して運営するという形式をとります。

「青森大学 脳と健康科学研究センター」は、健康に関するデータ集積と分析・検証や、人材の育成を進め、そこで得られたさまざまな技術と知識を地元に提供し、地域医療に貢献できる研究・教育機関として地域の人々に成果を還元していくことができ、併せて、青森大学の薬学部、社会学部等の研究活動がこれまで以上に活性化し、地域社会の活性化と健康長寿社会の構築に大きな役割を果たしていくことができると考えています。

観光文化研究センター

［観光人材の育成を目指し発足］

青森大学は平成 29 年 4 月 1 日、観光文化研究センターを設置しました。地域の観光振興に資する人材育成や、地域の観光を専門的立場から支援することを目的とし、広く観光を捉え、観光を学び、観光という視点で様々な場面で役立つ人材を輩出して、観光産業に留まらず、観光を通じて社会に役立つ人材を育成することを目指します。

具体的には、次に掲げる人材を育成するプログラムを企画し、実施します。

(1)グローバルな視野を持つ、国際競争、インバウンド等に対応できる人材
(2)観光の新たなコンテンツ開発ができる人材
(3)観光地マネジメントができる人材
(4)営業力・マネジメント力を身に付け、観光関連組織で役立つ人材
(5)観光地域づくりを持続的・戦略的に推進する組織（DMOなど）で活躍できる人材
(6)観光産業を支える人材
(7)その他センターの目的に合致すると認められる観光関係の人材

開設に先立ち、平成 28 年 9 月から平成 29 年 3 月にかけて、4 回にわたり「青森県観光人材育成会議」を開き、「求められる観光人材育成と研究機関の考え方、立ち位置」などについて、有識者を招いて意見交換しました。

［東北初、観光庁の事業指定］

当センターは平成 29 年 6 月、東北地方で初めて、観光庁の「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」の採択を受け、同年11月から「実践から学ぶ観光産業革新の手法」と題して、北東北 3 県および北海道・道南地域のホテル・旅館管理職や後継者を対象として、社会人向けの教育プログラムを展開します。

○目的

・経営危機を乗り越えた宿泊産業経営者から多角的に経営・サービスの革新について実践的に学ぶ。

・宿泊産業の魅力創造、経営効率化を通じた生産性向上。

・次世代経営者が夢や希望を持てる宿泊産業革新の方向性を理解し、事業意欲を創出。

・インバウンドへの取り組み方を学び、経営の安定化を図る。

○対象者

・宿泊産業に従事する次世代経営者、幹部職員

(観光協会、商工会議所、自治体などの観光担当者の参加も歓迎)

○募集定員・期間

・定員 20 名

○主な講師陣

・岩佐十良（株式会社自遊人代表取締役、旅館「里山十帖」総支配人

・宮崎富夫（「元湯陣屋」社長）

・渡辺賢（星野リゾート「青森屋」総支配人）

・小野秀一郎（株式会社インバウンドにっぽん／実践！インバウンド代表取締役）

○実施時期・場所（予定）

・第1ターム　11 月 28～30 日

・第2ターム　平成 30 年 1 月 15～16 日

・第3ターム　平成 30 年 2 月 13～15 日

※第 1、第 2 タームは青森市内会場で、第 3 タームは星野リゾート「青森屋」にて開催。

青森大学附属図書館

［第 22 回図書館文化講演会］

第 22 回図書館文化講演会が6月15日、本学図書館新館において開催されました。（共催：青森大学地域貢献センター）。

今回は、講師に日本銀行青森支店総務課長の郡司暢久様と、金融アドバイザーの中田鶴子様をお迎えし、総合経営学部と社会学部の2年生の中から約120名が受講しました。

はじめに金融アドバイザーの中田鶴子様が「若者狙う悪質商法―手口と対策方法について―」と題して、実際に消費生活センターに相談のあった事例を紹介し、携帯電話やインターネットを使ったワンクリック詐欺などの悪質商法についての対策方法、またクーリング・オフ制度についてクイズ形式などでお話しをいただきました。

続いて日本銀行青森支店総務課長の郡司暢久様より「日銀の役割と金融政策」と題して、日本銀行の歴史、青森支店が出来た経緯などについてお話しをいただきました。また、日本銀行の役割として、お札の発行や物価の安定のための金融政策について、私たちが普段何気なく利用している金融システムの仕組みについてなどをお話しいただきました。

私たちの生活の中で欠かすことのできない「お金」について、物価が不安定だとどのようなことが起こるのか、また、そうならないために日本銀行で行っている様々なこと、そして「お金」に関わる様々なトラブル、落とし穴など、大変わかりやすくご講演いただきました。
（青森大学ホームページより）

地域貢献センター

［公開報告会開催］

社会学部・櫛引研究室は NPO 法人ひろだいリサーチ（竹ヶ原公理事長）との共催で 1 月 26 日、本学 350 教室で青森県の委託事業「地域社会・企業を通じて考える青森県内で『働く・生きる』ことのポテンシャル研究」公開報告会を開催しました。

同事業は、櫛引素夫教授が理事を務めるひろだいリサーチが受託し、本学社会学部の後期科目「地域社会学Ⅱ」（社会調査士科目）を受け皿に、学生自身による地域社会調査の一環として実施しました。青森大学地域貢献センターが運営に協力しました。

学生たちはそれぞれの視点・関心事から、議論を通じて調査対象とすべき企業・団体を選択。みちのく銀行

（青森市）、ラグノオささき（弘前市）、青森県酒造組合（青

森市）、中里機械（八戸市）、木戸食品（外ヶ浜町）について、「SNS やアニメも活用し、北海道へ目を向けた戦略」、「実働 3 人の社員で一部上場企業とも取引のある技術力の秘密」、「人口減少が著しい地域で奮闘する企業の強み」などについて報告しました。

さらに、「県外へ出ることばかり考えていたが、地元企業にも関心が向いた」、「地酒の地産地消について調べ、『お酒を知ることは地元を知ることだ』と実感した」、「経営者の熱意こそ大切だと感じた」などの感想を語りました。青森県庁や八戸市庁、青森銀行、みちのく銀行、青森県商工会連合会などからも参加者があり、質疑では「調査項目に関する事前のコミュニケーションが大切だ」、「外国人の受け入れの可否は？」、「日本酒の消費量と若者のライフスタイルの関連性は？」といった意見や質問が出ました。

［第4回青森地域フォーラム開催］

2月18日、第4回青森地域フォーラムが「地域とともに歩み、未来を創る」をテーマに開催されました

会場には本学と連携協定を結んでいる青森市・小野寺市長、平内町・船橋町長をお迎えし、本学各学部の教員や学生、並びに本学がある幸畑地区の「幸畑団地地区まちづくり協議会」運営委員長ら11個人・グループが1年間取り組んできた活動を発表しました

≪発表≫

①青森認知症支援プロジェクト

②青森大学×平内町連携プロジェクト

③幸畑プロジェクト　大学の視点から

地域の視点から

学生の視点から

④高校生向けアプリ開発道場

⑤あおもりマルシェの活動報告

⑥道の駅いまべつ活動報告（社会学部）

⑦NPO と青森の未来を考える活動報告

⑧夜店通り商店街支援活動（経営学部）　　⑨青森大学忍者部活動報告

［まちなかフィールドスタディ支援事業報告会開催］

3月22日（水）に「まちづくり講演会＆フィールドスタディ報告会」（主催：青森市中心市街地活性化協議会、青森商工会議所）が、アウガ5階研修室にて開催されました。

青森大学からは、「青大薬すこやか成分研究事業」（同研究会＝井沼道子　薬学部助教）、「青森いきいき脳健康教室事業」（薬学部大上研究室＝大上哲也　薬学部教授）、「まちなか展覧・発表会開催事業」（社会学部田中ゼミ＝社会学部 3 年　赤瀬満輝　君）、「夜店通り商店街と大学生の連携事業」（経営学部沼田チーム＝経営学部 3 年　小山内康貴　君）の4チームが参加しました。

［青森北高校との連携協定締結］

4月13日、青森県立青森北高等学校と青森大学との連携に関する協定締結式が行われました。

本学は幸畑地区と様々な連携を行い、地域とともに生きる大学としての役割を担ってきました。青森北高等学校は、かかしの作成や展示などをはじめとした油川地区の行事やイベントに生徒会や部活動で参加するなどの活動を行ってきました。

今後は次の支援や交流をはじめとした高大連携を進めていく予定です。

1．　青森大学と青森北高等学校とが協働して、油川地区との連携活動を推進する。「かかしロード」への参画及び支援などをきっかけとする。

2．　青森大学の教員による定期的な専門的授業・演習などの提供。この専門的授業・演習では、ソーシャルスキルトレーニングの実施や地域活動への参加・協力など通して、望ましい心身の成長を促し、健康・健全な高校生活の一助とする。

３．　学校同士のイベントなどにおける交流（学園祭など）。

［道の駅いまべつでの調査・研究活動］

青森大学と「道の駅いまべつ」の連携協定に基づく、同駅の振興に関する 2017 年度の調査活動が 5 月 11 日、始まりました。社会学部の 3、4 年生が、利用促進や情報発信、交流法について検討します。

連携協定は 2015 年度に締結、本年度が 3 年目の活動となります。今回、調査に参加する学生らは 2016 年から、今別町での調査や地域貢献活動に携わっています。綿谷広巳駅長と名刺交換した後、直近の同駅の利用状況などについて話をうかがいました。

続いて、開業から 2 年目に入った北海道新幹線・奥津軽いまべつ駅や、駅近くの荒馬の里資料館、さらに、袰月地区にある海藻の加工・販売会社「袰月海宝（ほろづきかいほう）」などを訪れて、状況を確認したり、地域の現状に関するお話をうかがったりしました。

［幸畑団地地区まちづくり協議会との防災訓練実施］

7 月 8 日（土）、青森大学×幸畑団地地区まちづくり協議会の合同防災訓練を本学第二体育館で実施しました。

学生、教職員、幸畑団地の皆さん約 50 名が参加し、本学が連携協定を結んでいる青森県防災士会の防災士の方を講師として訓練を行いました。「避難所運営ゲーム」や「AED・応急処置訓練」、「炊き出し訓練」の 3 つの訓練が実施され、直前に九州地方の豪雨災害があったことから、参加者は真剣に取り組んでいました。

また、訓練の途中には、衆議院議員の津島淳先生が視察に訪れ、熱心に見学されていました。

学習支援センター

学習支援センターでは、平成28年度は以下の4事業に取り組んだ。また、平成29年度は5月に開いた運営委員会で従来の事業を5事業に取りまとめて確定し、センター員が分担して活動に取り組んでいる。センター員一人ひとりは、「学生中心の大学」の機能の充実に関わる諸活動に主体的に携わっている。平成29年度の事業集約に際しては、学生の支援や教学IR活動を、教務委員会、学生委員会、FD委員会といった学内他組織との連携を図りながら、進めていくこととした。

【平成 28 年度】

(a) 学習相談窓口の設置、学生支援の実態調査と今後の体制検討

(b) IRの推進

(c) 学内他組織との連携

- ✧ 地域活動（制度整備、学生参画の推進）
- ✧ 資格取得支援
- ✧ 就職・進学支援
- ✧ 留学生支援、国際化の推進
- ✧ ITによる授業支援
- ✧ 図書館などの利活用推進

(d) ミニセミナーの実施

【平成 29 年度】

A. 意欲ある学生向け支援（学生参画の推進、学習環境の整備など）
B. 課題を抱えた学生向け支援（学習（学生）相談のしくみ整備、学習支援など）
C. IR（学内の教学に関する情報収集・分析など）
D. 学内外への広報（センター活動の学内周知、学外への発信など）
E. 活動の効率化（情報化の推進など）

［学習相談窓口の設置、学生支援の実態調査と今後の体制検討］

学習相談窓口は、平成 28 年度は「学生カウンセリング」と「センター員窓口」の 2 通りを合わせて 39 回開設した。この中で、「学生カウンセリング」は 11 件、「センター員窓口」は 3 件の相談が行われた。平成 29 年度も同様の頻度で窓口を開設しており、6 月末現在で「学生カウンセリング」が 4 回、「センター員窓口」が 10 回開設（2 名利用）されている。

学内での学生支援の状況を把握し、今後のしくみ整備につなげることを目的として、平成 29 年 1 月に「学生支援に関する調査」を実施し、分析結果を教職員の方々に配信した。この調査結果などを踏まえ、平成 29 年度には学生支援のしくみ整備に取りかかることとしている。

［IRの推進］

平成28年度は、学長補佐室と連携して学内で行われているIR関連の諸調査の実施状況を確認した。また、以下の調査を実施し、回答の集計・分析を行ったうえで、分析結果を大学Webページ経由で学外に公開（一部調査を除く）するとともに、教職員に配信した。

- 平成28年度後期「学修時間・学修行動調査」（全学部学生向け、抽出調査）
- 平成28年度「学生生活満足度調査」（全学部学生向け、抽出調査）
- 「学生支援に関する調査」（教職員向け、悉皆調査）

平成29年度は、本学が策定した３ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の到達度の把握に向け、新たな調査を加え、匿名式→記名式、抽出調査→悉皆調査への移行を図る。これらの調査の実施・活用に関しては、それぞれのポリシーに関係する学内組織（教務、入試など）と連携を図る。また、平成28年度に確認した学内諸調査に関して整理・統合を検討する。

青森大学オープンカレッジ

［平成29年度青森大学オープンカレッジ市民大学講座開校］

桜の芽吹きを感じさせられる穏やかな4月14日、平成29年度市民大学開講式及び第１講が本学622教室で開かれた。定員を上まわる43人が受講した。この日は、送迎バスや自家用車で会場に集まり、そのほとんどが昨年からの受講生で占めた。

開講式では主催者を代表して矢萩正人所長が、今年は40周年を迎えることや楽しく学ぶことを応援

したいとあいさつし、崎谷康文学長が祝辞を述べた。続いて、受講生と教職員の紹介が行われたあと、青森大学校歌「若者よ　若者よ」を全員で斉唱して式を終了した。

第１講に入る前に、講師の平井卓先生に崎谷学長から、名誉教授の称号が授与された。その後、「認知症事故と家族の責任」と題して、平井卓先生が講義をした。

なお、本年度の創立40年記念青森大学オープンカレッジ市民大学講座は、以下の20講が予定されている。

1　4月14日（金）　開講式　青森大学 622教室
認知症事故と家族の責任
前青森大学経営学部教授　平井　卓　氏

2　5月12日（金）中国文化の中で龍の位置付け　アウガ5階 研修室
青森大学オープンカレッジ副所長・教授　江川　静英　氏

3　5月26日（金）おいしく減塩！青森県の健康「だし活」　アウガ5階 研修室
青森県農林部総合販売戦略課　地産地消グループだし活担当主査　吉田綾子　氏

4　6月 2日（金）戯れ俳句　戯れ短歌　アウガ5階 研修室
秋田雨雀記念館館長　伊藤　蒼風（そうふう）氏

5　6月 9日（金）言葉で遊ぶ　言葉を遊ぶ　アウガ5階 ホール
マルチタレント・詩人　伊奈かっぺい　氏

6　6月30日（金）人類の物づくりの願望 ～ロボットの歴史から考える～　アウガ5階 研修室
青森大学オープンカレッジ所長・教授　矢萩　正人　氏

7　7月 7日（金）石田三成と津軽 ～子孫が語る石田三成～　アウガ5階 研修室
元青森放送技術局長　杉山　丕（はじめ）氏

8　7月14日（金）銀行マンとしてふるさと創生を考える　アウガ5階 研修室
（株）みちのく銀行頭取　高田　邦洋　氏

9　7月21日（金）西目屋村・津軽ダム見学　現地学芸員　野外学習

10 8月25日（金）アンチエイジングを追いかけて　青森大学 第2体育館
～これだけは知っておきたい体の常識、これだけは続けたいエクササイズの習慣～
青森大学名誉教授　雨森　輝昌　氏

11 9月 8日（金）ファミリアとレナウン　アウガ5階 研修室
青森大学総合経営学部長・教授　森　宏之　氏

12 9月22日（金）湊あおもりの歴史文化を語る　青森大学 622教室
北のまほろば歴史館副館長　石山　晃子　氏

13 10月 6日（金）津軽藩早道之者（忍者）の歴史　アウガ5階 研修室
青森大学学長補佐・薬学部教授　忍者部部長・清川　繁人　氏

14 10月13日（金）　消費者市民社会構築のために　アウガ5階 研修室
～青森県消費生活センターの役割と消費者力アップに向けて～
青森県消費生活センター業務部次長　林　博美　氏

15 10月20日（金）　八戸市・南部氏庭園見学　現地学芸員　野外学習

16 10月27日（金） 歌唱指導＆ミニコンサート　アウガ5階 ホール
青森大学ソフトウェア情報学部准教授　白岩　貢　氏
17 11月10日（金） 美文字講座　アウガ5階 研修室
（筆ペンを使いこなす～のし袋の書き方、サインの仕方）
青森山田高等学校教諭　西谷　隆志　氏
18 11月17日（金） 美しく生きる ～おしゃれをしよう～　青森大学 622教室
青森県ヘアーアーチスト専門学校教頭　榊　くみ　氏
19 11月24日（金） 中高年とコミュニケーション　アウガ5階 研修室
青森大学オープンカレッジ副所長・教授　船木　昭夫　氏
20 12月 1日（金）コンパクトシティと地域活性化　青森大学 622教室
青森大学総合経営学部教授　井上　隆　氏
修了式

［青森大学オープンカレッジ創立40周年記念・特別講演会］

オープンカレッジ創立40周年記念・特別講演会（市民大学第5講）が6月9日、青森市駅前アウガ5Fホールで開かれた。受講生とその家族ら約120人が参加した。

本学（青森短期大学）の卒業生で、マルチタレント・詩人として活躍中の伊奈かっぺいさんを講師に招き、「言葉で遊ぶ　言葉を遊ぶ」を学んだ。軽妙な語り口で参加者を爆笑の渦に巻き込んだかっぺいさんは「テレビをみて素直にならない。他人の言葉の揚げ足を取る。一生懸命聞くと惚けにならない。惚（ぼ）けと惚（ほ）れるは同じ漢字。どちらもうっとりする。思いついたらメモを取ることが大事。賞に入らなくてもいい、楽しく言葉遊びをしよう」と、自らの体験を話していた。

また、自身が代表で毎年続けてきた「津軽弁の日」は今年で30回目となるが、諸般の都合で短文芸などの募集は今年で打ち切る方針であり、来年からは違う形で高木恭造さんを偲ぶ会「津軽弁の日」を開きたいと話していた。

国際教育センター

国際教育センターでは、平成 29 年度、短期交換留学生を含めて合計 25 名（9 カ国）の日本語教育と学習及び生活支援を行っている。年 2 回行われる日本語能力試験では、現在 N1 合格者が 4 名、N2 合格者が 8 名。未受験や結果がなかなか現れない留学生もいるが、次回 12 月の試験に向けて鋭意努力している。昨年度後半から、今年度にかけて次の留学生 3 名が外部奨学金を取得することができた。

経 28109 ムハマド ハリス（JEES 日本語教育普及奨学金）
社 26053 ソナム ギャルモ（公益財団法人ロータリー米山記念奨学金）
経 26067 黄 湘瑀（日本学生支援機構 私費外国人学習奨励費）

また、青森大学の日本人学生を対象とした啓発事業や留学支援を行っており、主な結果は次のとおりである。

2017 年韓国語・韓国文化夏休み研修（忠清大学校　8 月 16 日～21 日）
異文化理解・語学研修会　三沢基地内エドグレン高校　日本語（5 月 2 日）
グローバル人材育成入門セミナー（4 月 13 日～27 日　合計 3 回）

海外短期留学支援
学生：経 27084　持舘将貴
留学先：米国マサチューセッツ州　Pine Manor College & Boston Rhythmic
プログラム：トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム第6期多様性人材コース
期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

学生：経 27035　神山敏夫
留学先：韓国慶尚北道　東国大学校慶州キャンパス
プログラム：本学との姉妹提携校
期間：平成 28 年 9 月～平成 29 年 7 月

キャリア支援チーム

［就職セミナー、就職説明会開催］

平成29年3月1日より就職活動が本格的に始まり、総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の4年生と薬学部の6年生は、民間企業ならびに公務員、教員を目指してそれぞれ精力的に活動を行っております。

キャリア支援チームでは、以下の様に就職セミナーを開催し、学生が企業・団体から採用についての話を伺い、自分の志望する企業・団体について理解を深めました。

総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の4年生については、3年次の就職活動実践演習Bを通して、身だしなみや面接の立ち居振る舞いを練習しており、緊張した中ではありましたが、それぞれ企業・団体の担当者との質疑応答を行いました。

薬学部については、病院や薬局、他薬剤師を必要としている企業・団体の話を伺い、就職活動の意欲を高めるとともに、薬剤師国家試験に向けてのモチベーションを高めています。また、6年生の他、実務実習直前の5

年生も参加し、業界研究を深めました。

年月日	名称	会場	参加企業	参加学生数
平成29年2月28日	3学部合同就職セミナー	ラ・プラス青い森	80社	経・社・ソ 128名
平成29年4月5日	薬学部合同就職セミナー	ホテル青森	47社	薬学部5・6年生 66名
平成29年7月12日	3学部合同就職説明会	学内	8社	総経・社・ソ 21名

［キャリアインタビュー開催］

1年生が前期で履修をしている「キャリアデザインⅠ」において、働くことについて、実際に企業の方からお話を伺うため、キャリアインタビューを平成29年6月23日（金）に開催しました。

青森県中小企業家同友会に依頼をし、11名の講師をお招きし、ブース形式で行いました。講師の方から働く動機やきっかけ、やりがいなどについてお話を伺った他、事前にグループで相談していた質問を行い、理解を深めていました。

1年生のキャリアデザインでは、自己理解を深め、大学生活の目標を明確にしていく授業を行っています。キャリアインタビューを通し、働くことの意義について考えることができました。

［インターンシップガイダンス開催］

就職活動の準備の1つとして、インターンシップの重要性が高まっています。企業理解を深めることはもちろん、実際に働いている社員の方の話や会社の雰囲気を肌で感じ、自分の適性や志望と合うか確認ができるからです。

また、インターンシップを開催する企業・団体も年々増加しています。

5月24日（水）と6月28日（水）、外部講師を招き、インターンシップガイダンスを開催しました。

インターンシップとは何か、インターンシップの意義など基本的な話題から始まり、インターンシップに臨む上での意識の持ち方や注意点などを伺いました。

3年生はもちろん、1・2年生も参加をし、自分の進路について前向きに考えている学生が増えていることがわかりました。

今後も、学生の要望にあったガイダンスを企画していきます。

総　合　経　営　学　部

[外部研究助成・事業助成] 平成 29 年 1 月～

井上　隆　　助成機関:(公益財団法人)みちのく･ふるさと貢献基金助成部門: 教育･福祉･環境助成事業部門、助成金額: 540,000 円（平成 28～29 年度）

研究主題:「移動販売車による買物弱者支援の動向調査」受託者:佐々木純一郎(弘大)、井上隆(青大)、谷口清和(青銀研究所)、竹ヶ原公(弘大院)

松本大吾　（研究代表者）・

飛鳥由美子（研究分担者）

「青森県における税理士事務所が職員に求める能力と資質に関する調査」

補助金額：258 千円、助成区分・期間：青森学術文化振興財団

2017 年 4 月～2018 年 3 月

渡部あさみ　「先進諸国におけるホワイトカラー労働者の労働時間管理」若手研究（B）平成 26 年度から平成 29 年度

[著書、論文、研究ノート、評論・書評、翻訳、寄稿、調査報告書など] 平成 29 年 1 月～

中村和彦　　「物流・マーケティング機能を支える情報システム」『研究紀要』青森大学学術研究会

沼田　郷　　「青森県における精密機械・光学産業の発展プロセスと課題」2017 年 3 月（平成 28 年度青森学術文化振興財団研究助成事業　成果報告書)。

渡部あさみ「長時間労働から『健康と生命』を守る人事労務管理へ向けて」大原記念労働科学研究所『労働の科学』72 巻第 1 号、pp. 22-25、2017 年 2 月。

「長時間労働と人事労務管理」『経済』第 259 号、新日本出版社、pp. 52-61、2017 年 3 月。

「女性正規雇用労働者の就業継続と長時間労働問題-女性正規雇用労働者が離職しない青森ダイハツモータースの事例からの一考察-」女性労働問題研究会『女性労働研究』61 号、すいれん舎、pp. 116-130、2017 年 4 月。

[平成 28 年度経営学部経営学科学生研究発表大会]

平成 29 年 1 月 30 日（月)、平成 28 年度経営学部経営学科学生研究発表大会が 6 号館メモリアルホールにおいて開催された。4 年生が卒業論文について発表し、その後、活発な質疑応答が行われた。発表後、中田吉光学科長を審査委員長とする 3 名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞以下各賞が選出された。

・最優秀賞

経 25042 佐藤 真登（森ゼミナール)「青森県西北五地域の地域包括ケア」

・優秀賞

経 25077 三上 皐誠（沼田ゼミナール)「シリア難民に対するドイツの政策と今後の課題」

・佳作

経 25008 岩村 和明（井上ゼミナール)「世界が学ぶトヨタの強さの秘密」

《特別賞》

・パフォーマンス賞

経 25063 長澤 正幸（中村ゼミナール）「東京ディズニーリゾートの経営に関する一考察」

・地域貢献賞

経 25042 佐藤 真登（森ゼミナール）「青森県西北五地域の地域包括ケア」

経 25072 桧森 裕大（中村ゼミナール）「秋田ノーザンハピネッツに関する一考察～ブースターとの関係に着目して」

・研究奨励賞

経 25026 北目 涼（赤坂ゼミナール）「青森ねぶた祭りの研究」

経 25072 桧森 裕大（中村ゼミナール）「秋田ノーザンハピネッツに関する一考察～ブースターとの関係に着目して」

経 25081 田澤 凌亮（櫛田ゼミナール）「JA とはなにか」

（松本大吾 講師）

［総合経営学部教務委員会の取組み］

平成 29 年 4 月、青森大学経営学部は従来の経営学部を発展的に改組する形で「総合経営学部」に学部名称を変更した。従来の経営学部が有する良き伝統は活かしつつ、教育内容の一層の発展を目指して改革の歩みを進めていく。

平成 29 年度の総合経営学部教務委員会は、(1) 履修指導・出欠管理、(2) 教務課程改革を中心に取り組み、教育の質の格段の向上を目指す。(1) については近年の懸案であったオリター制度導入に向けた実験的取り組みとして、スチューデント・アシスタント制度を活用した、新入生対象の教務相談会を実施した。この取り組みでは、本学部の 3・4 年生が自身の大学生活の経験を踏まえて、履修登録の目安など教務面について新入生の相談に乗った。教務相談会の開催期間中（4 月 5 日～14 日）、延べ 30 名を超える新入生が相談に訪れた。(2) については平成 30 年度以降のカリキュラム改革（経営情報ビジネスコースの廃止など）に向けて、カリキュラムの体系化、FD 委員会と連動した授業点検などを進めていく。

（松本大吾 講師）

［総合経営学部高大連携・接続の取組み］

平成 29 年 4 月 28 日（金）、青森商業高校において平成 29 年度第 1 回青森商業高校・青森大学高大連携推進会議が開催された（本学側出席者：澁谷泰秀副学長、沼田郷地域貢献センター長、松本大吾講師、飛鳥由美子講師）。

本協議会では、平成 29 年度から総合経営学部で開始した「高大連携科目等履修制度」についての説明と意見交換が行われた。「高大連携科目等履修制度」は、本学と連携協定を締結している高等学校に在籍している高校生が本学に開設・指定されている「高大連携授業科目」を履修し単位を取得した場合には、本学入学後に当該科目の取得単位を認定する制度である。本制度により高校生が本学の学生と一緒に授業を受けることで、高校生の進路に対する意識や学習意欲を高める効果が期待される。なお、現時点の「高大連携授業科目」として、日商簿記 1 級取得に向けた 4 科目が指定されている。

平成 27 年度入学生から創設された簿記資格保有による学業特待制度の創設から 2 年が経った。本特待制度を利用して入学した学生のほとんどが日商簿記 2 級を取得して入学しているが、入学後

は、さらに上の日商簿記１級取得を目指す学生、IT パスポートなどの情報系の資格取得を目指す学生、高等学校教諭一種免許（商業）を目指す学生など様々おり、それぞれの目標に向かって日々努力している。

（松本大吾 講師）

［『ＩＴパスポート試験』（主催：情報処理推進機構）に向けての取組み］

2009 年度からスタートした『ＩＴパスポート試験』は、今年度で９年目を迎えます。この試験は、IT 化が進む現代社会において、備えておくべき IT に関する基礎的な知識・能力を有することが証明できる国家試験です。

総合経営学部では、合格をめざす学生らが夏休み・春休みの期間を利用し、短期集中型の講習会形式で取り組んでいます。またその成果は過去 12 名の合格者を数えます。今年は講習会に 7～10 名の学生が参加し、今後の試験結果が待たれます。

学生自らの目標に向かって取り組むことで、短期間で急速に成長していく様子が、指導する立場として最も強く印象に残ります。またこの種の資格試験合格者は、就職にも強いという傾向が見受けられます。今後も、広く学生にチャレンジを呼びかけながら、これまでの対策講習会で得た多くの経験を活かした指導を行っていく考えです。

（石川祥三 教授）

［総合経営学部スポーツ大会］

6 月 12 日(月)3.4 限目に掲題を開催。全 33 チームの参加を得、トーナメント方式のバレーボール競技を行った。入賞チームは１点を争う白熱したゲームが続き、どこが勝ってもおかしくない好ゲームを展開してくれた。予定された時間通りケガなく無事終了したことを報告します。

※結果・順位

優勝:赤坂ゼミ３年、準優勝:岩淵ゼミ１年、３位:井上ゼミ３年

（赤坂道俊　教授）

［東日本学生新体操選手権大会］

5 月 19～21 日、福島市国体記念体育館において第 50 回東日本学生新体操選手権大会が開催され、団体競技 10 年連続 14 度目の優勝を果たしました。個人競技においても安藤梨友（経 1）が連覇中の永井直也（経 4）をおさえ、個人総合初優勝をした。

＜団体成績＞　優勝:青森大、３位:青森大Ａ、５位:青森大Ｂ

＜個人総合成績＞　優勝:安藤梨友（経 1)、2 位:永井直也（経 4)、4 位:佐久本歩夢（経 3)、8 位:佐藤綾人（経 1)、9 位:佐藤颯人（経 1)、11 位:左右木星斗（経 4)、13 位:金田翼佐（経 2)、15 位:福田純（経 2）

※団体 2 チーム、個人 8 名が 8 月に行われる第 69 回全日本学生新体操選手権大会の出場権を得た。

（中田吉光 教授）

[学会報告、学会活動など] 平成 29 年 1 月～

岩淵　　護　「地域における伝統工芸の復興と日系企業が果たすべき役割-スリランカで 9 割を生産するノリタケ工場、世界ブランドを目指すマザーハウス」工業経営研究学会グローバリゼ

ーション研究分科会，平成 29 年 5 月。

沼田　　郷　中道一心、沼田郷（共同報告）アジア経営学会（西部部会：同志社大学）4 月 22 日　報告テーマ：「後発企業の事業展開を活用する日本企業:レンズメーカーの中国進出の事例」

（コメンテーター）　多国籍企業学会（東部部会：北星学園大学）6 月 10 日　報告者：穴沢眞（小樽商科大学）タイトル：外資依存の工業化とキャッチアップの天井ーマレーシアの事例

松本　大吾　国際会計研究学会第 8 回東日本部会（6 月 17 日）準備委員長（開催校：青森大学、於：青森県観光物産館アスパム）

渡部あさみ　「人事労務管理のフレキシブル化と働きやすい職場づくりへ向けた取り組みー職場レベルにおける取り組み事例からの一考察ー」日本経営学会東北部会、弘前大学、2017 年 5 月。

「日本の労使は労働時間をいかに扱ってきたのか-長時間過密労働を生み出さない『これからの人事労務管理』を考える-」過労死防止学会第 3 回大会、専修大学神田校舎、2017 年 5 月。

［社会活動・地域貢献・講演など］平成 29 年 1 月～

赤坂　道俊　1 月 12 日　　第 1 回度青森県電気機械器具製造業最低工賃専門部会、於：青森合同庁舎 4 階会議室。

2 月 14 日　　「アウガ閉店まで 2 週間」ニュース・レーダー：インタビュー、RAB 青森放送 2 月 16 日　平成 29 年度青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援運営協議会（会長)、於：青森職業能力開発促進センター

2 月 17 日　　平成 28 年度第 2 回農地中間管理事業評価委員会、於：ラ・プラス青い森

3 月 13 日　　第 7 回青森地方最低賃金審議会（会長)、於：ラ・プラス青い森

3 月 24 日　「〈北海道新幹線・開業 1 年〉上、函館ビジネス開拓中」『朝日新聞』

6 月 2 日　　平成 29 年度農地中間管理事業評価委員会、於：ラ・プラス青い森

井上　　隆

1 月 21 日　　コーディネーター、青森大学付属総合研究所主催・平成 28 年度第 2 回シンポジウム「高齢者の特殊詐欺犯罪被害の減少を目指して」、新町キューブ

2 月 7 日　　青森市中心市街地活性化協議会･第 3 回運営委員会、副会長、青森国際ホテル

2 月 10 日　青森市総合都市交通対策協議会宛、青森市市民バス「矢田･滝沢線」事業計画変更に係わる意見書作成・送付

2 月 10 日　青森市健康福祉部 福祉有償運送運営協議会会長、青森市福祉増進センター

2 月 17 日　NPO 法人ひろだいリサーチ、年次報告会、司会,リンクモア平安閣市民ホール

2月18日　コーディネーター、青森大学地域貢献センター主催・第4回青森地域フォーラム、「地域とともに歩み、未来を創る」、青森市福祉増進センター

3月3日　国交省青森運輸支局・厚労省青森労働局共催、トラック輸送における取引環境･労働時間改善青森県協議会(第６回)、会長、ホテル青森

⇒ 関連記事 ：『青森県トラック協会報』No.483,2017年3月号

3月14日　ＴＶインタビュー：「青森空港有料道路料金徴収期間延長」について

⇒ 3月17日放映、ＡＴＶわっち!!Ｎｅｗｓ

3月22日　国交省青森河川国道事務所・青森県県土整備部共催、道路交通環境安全推進連絡会議、アドバイザー、青森河川国道事務所会議室

3月27日　(公益社団法人)青森県トラック協会主催、平成28年度 青森県貨物自動車運送適正化事業実施機関評議委員会、委員長、

青森県トラック協会2F研修室

4月15日　ＮＰＯ法人ひろだいリサーチ、拡大理事会、青森大学631教室

5月 9日　青森市中心市街地活性化協議会･第1回タウンマネージメント会議、副会長、パサージュ広場2F会議室

5月17日　青森市中心市街地活性化協議会年次総会、副会長、アラスカ会館3Ｆエメラルド

⇒関連記事:青森商工会議所『かけはし』Vol.210.通巻No818.

5月18日　青森市新町商店街振興組合 第42回通常総会・懇親会、中活協副会長として来賓参加、アラスカ会館

5月20日　MPO法人ひろだいリサーチ 「移動販売車動向調査」研究会、ならびに同リサーチ 平成28年度通常総会、弘前市ヒロロ３Ｆ.

5月31日　青森県県土整備部 県営住宅等指定管理者審査会(第１回)、委員、

県民福祉プラザ

6月1日　青森市中心市街地活性化協議会､副会長「高校生カフェ運営実験事業 in フェスティバルシティアウガ」報告･意見交換会、まちまちプラザ

6月2日　MPO法人ひろだいリサーチ 移動販売車動向・ヒリング調査

⇒聞取り調査：青森県民生協新規事業開発課

6月14日　青森県総務部 県公社等経営評価委員会 平成29年度第1回、委員長、

ラ･プラス青い森

⇒関連記事 ：『東奥日報』「公社の経営評価､12月に知事報告」2017.6.15付

6月23日　MPO法人ひろだいリサーチ 移動販売車動向・ヒリング調査、深浦町･(旧)岩崎村方面

⇒聞取り調査：深浦町総合戦略課、セイリング、網元静観荘. 6/23～24

佐々木豊志

4月18日　環境省：「みちのく潮風ロレイル」業務構築のための検討会。

於：東北地方環境事務所（仙台）

4月29日　はたらく馬協会：はたらく馬フェス対談「現代のはたらく馬の意味とは？」
於：高尾の森自然学校（東京・八王子）

5月15日　環境省：みちのく潮風ロレイル業務構築のための調査及び検討会
於：種差海岸インフォメーションセンター（八戸市）、北山崎ビジターセンター（田野畑村）浄土ヶ浜インフォメーションセンター（宮古市）、東北地方環境事務所（仙台）

5月26日　日本環境NPOネットワーク：環境シンポジウムエコラの森
（大崎市川渡温泉）

6月7日　プロジェクト演習訪問企業ミーティング　於：青森総合卸センター

6月8日　プロジェクト演習訪問企業調整打ち合わせ　於：青森市産業会館

6月16～18日　日本野外教育学会第２０回記念大会　於：国立オリンピック記念青少年総合センター

6月27日　プロジェクト演習訪問企業ミーティング　青森オフセット印刷（株）

中田吉光

1月1日　「新春特番 世界が注目！ＣＯＯＬ ＪＡＰＡＮ」（ＮＨＫ BS1）で本学新体操部が映像とともに紹介される。

1月8～9日　男子新体操全国合同合宿及び審判講習会東北会場（青森：国際卓球センター）で行った。

1月14日　青森県スポーツ大賞（国際ホテル）を受賞する。

1月18日　青森市立堤小学校5年生による「青森再発見！」のテーマで来校し、施設見学・働く様子・質問インタビューを受ける。

1月18日　（公財）日本体操協会特別賞（PALACE HOTEL TOKYO）を受賞する。

1月23日　新春講演会「青森から世界へ」（商工中金青森支店主催・弘前パークホテル）のテーマで行った。

1月29日　「ジュニアアスリート育成セミナー」（県教育庁スポーツ健康課主催・マエダアリーナ）で小学4～6年の児童及びその保護者に講演を行った。

1月31日　東奥スポーツ大賞（東奥日報本社）する。

2月4～5日　2回目の男子新体操全国合同合宿及び審判講習会東北会場（山形：山形市総合体育館）で行った。

2月7日　青森市スポーツ奨励賞（ホテル青森）を受賞する。

2月17～19日　新体操の舞台「ＢＬＵＥ VOL.5～めぐる～」、リンクステーションホール（青森市文化会館）において開催し3500人の集客を得た。

2月28日　ＴＢＳ「別冊アサ秘ジャーナル」の取材を受ける。

3月2～3日　「週刊女性・人間ドキュメント」（4月11日号）の取材を受け掲載される。

3月8～9日　ソニー株式会社の新機種プロフェッショナル向けカメラの広報宣伝を目的とした映像出演の収録を行った。国内外の展示会及びＷＥＢ（ＹＯＵＴＵＢＥチャンネル、ＨＰ）に使用。

3月14日　全日本学生体操連盟及び関東・東北北海道学生体操連盟役員総会（岸記念体育館）に出席する。

4月2日　ＴＢＳ系列「情熱大陸」に出演・オンエアーされる。

4月8日　青森県体操協会総会（アラスカ会館）に出席し、優秀監督賞を受賞する。

4月17～18日　HOMME PLISSE ISSEY MIYAKE JOMONシリーズ撮影を本学運動部学生で行う。

4月22日　沖舘市民センターにおいて「元気あっぷる体操」を指導する。

4月24日　青森市立幸畑小学校ＰＴＡ総会に役員として出席する。

4月27日　「日経新聞～越えるこえる超える～」5月26日朝刊予定の取材を受ける。

5月12～14日　第15回全日本新体操ユースチャンピオンシップ・第8回男子新体操団体選手権大会（東京体育館）の上級審判員として参加した。

5月31日　「田子町チャレンジデー2017」（田子町農業者ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞｾﾝﾀｰ ｱﾘｰﾅ・田子町主催）において講演及び「元気あっぷる体操」の学生によるレクチャーを行った。

6月27日　月刊『致知』9月号特集テーマ「閃き」（致知出版社・人間学を学ぶ月刊誌」の取材を受ける。

6月29日　ＴＢＳ「ドリマックス社」からフィクションドラマについての取材を受ける。

中村　和彦

4月　ボランティア参加　於：障害者支援施設 津麦園

4月　「鶴の舞橋写真コンテスト2016年入選作品展」にて共催出展
於：青森県観光物産館アスパム２階エネルギー館ギャラリー

6月　企業訪問（学生引率）　於：むつ湾フェリー株式会社

6月　東日本大震災復興応援イベント「Road To Tohoku Live」スタッフとして参加
於：青森Quarter

沼田　郷

2月9日　平内町　ブランド戦略推進会議

2月18日　第４回青森地域フォーラム

2月21日　みちのく銀行　「地域活性化ファンド」調印式

2月21日　財務省青森財務事務所
教養講和（テーマ:環太平洋貿易における現状と課題）

2月23日　平内町　ブランド戦略推進会議

2月24日　青森商工会議所

2月27日　文部科学省　産官学共同研究プロジェクト推進フォーラム 於：東北大

3月21日　第４回　青森観光人材育成会議　報告：青森大学の取り組み【観光】
於：青森国際ホテル

3月22日　まちなかフィールドスタディ助成事業報告会　於：アウガ

4 月 13 日　　青森北高校との連携協定締結
4 月 20 日　　青森中央高校　課題研究（助言講師として）
4 月 20 日　　経済同友会会合　於：ホテルアラスカ
4 月 21 日　　青森市　第１回連携推進会議（於：青森市役所）
4 月 25 日　　平内町　ブランド戦略推進会議
4 月 28 日　　青森商業高校　第１回連携推進会議
5 月 8 日　　青森県庁（年初挨拶）
5 月 16 日　　青森北高校　第１回連携推進会議
5 月 17 日　　平内町　第１回連携推進会議
5 月 23 日　　青森商工会議所
5 月 26 日　　油川まちづくり協議会（於：油川市民センター）
6 月 6 日　　平内町　ひと、まち、しごと創生会議（於：平内町役場）
6 月 6 日　　財務省青森財務事務所（於：青森大学）
6 月 6 日　　幸畑団地地区まちづくり協議会（大学祭に関する打ち合わせ）
6 月 13 日　　財務省財務行政モニター会議　（青森合同庁舎）
6 月 13 日　　青森県商工労働部新産業研究課　タスクフォース　（於：アスパム）
6 月 15 日　　中小企業家同友会　企業展への学生参画に関する打ち合わせ　（於：同友会事務所）
6 月 16 日　　第 11 回　かかしロード 280　全体会議　　於：油川市民センター
6 月 22 日　　津軽海峡ブランド認証委員会（於：青森国際ホテル）

渡部あさみ

3 月 4 日　　東京都社会保険労務士会研修委員会開催平成 28 年度人事労務管理研修会[応用編]「日本における等時間労働問題と人事労務管理」、東京(東京都社会保険労務士会館研修室 ABC)
3 月 24 日　　神奈川県職労本庁支部主催「長時間労働問題に関する研究会」神奈川県(波止会館１階議室)
3 月 25 日　　東京都社会保険労務士会研修委員会開催平成 28 年度人事労務管理研修会[応用編]「企業経営とダイバーシティ・マネジメント」、東京(東京都社会保険労務士会館研修室 ABC)
6 月 2 日　　人事労務管理論Ｉの課外活動で、青森ダイハツを訪問
6 月 5 日　　経営基礎演習(1 年渡部ゼミ)の課外活動で、ねぶた小屋を訪問
6 月 9 日　　社会政策論の課外活動で、連合青森を訪問
6 月 12 日　　中小企業論Ｉの課外活動で、北洋硝子を訪問

社 会 学 部

［これからの社会学部］

現在、18 歳人口の減少や長期間にわたる地域経済の低迷などにより、特に地方の私立大学では、大学の特

徴をブランド化し、他大学との差別化を図ることが求められている。この点に関しては、本学は、「地域とともに生きる大学」と「学生中心の大学」を二つの柱として、大学改革を進めてきた。社会学部は、この二つの柱の下、学部の目標を「当てにされる社会学部」及び「保護者が頼れる社会学部」となることの二つとしている（青森大学中期計画）。社会学部の「当てにされる社会学部」と「保護者が頼れる社会学部」は、全学の二つの柱を受けて策定されているものであるが、この二つの目標の内容をより明確にする必要がある。二つ目の目標である「保護者が頼れる大学」の主体は保護者であることから、「当てにされる社会学部」の主体は、学生、自治体、産業界などの大学を取り巻く環境である。この最初の目標を具体化すると、次に示されるような項目があげられる。

① 地域が必要とする人材を創出するカリキュラムを備えている。（自治体・産業界が主体）
② 社会人力を育成することができる演習・実習がある。（学生が主体）
③ 青森地域（あるいは出身地の地元）の自治体や産業界で必要とされている職場に内定が取れる（学生、自治体、産業界などが主体）
④ 社会学部に自治体や産業界などが必要としている知識・技術などの蓄積がある

これらの4項目は、二つ目の目標である「保護者が頼れる大学」にも関連するが、保護者が安心して大学に子供の教育に関して頼ることができるとは、主に下記の 2 項に集約することができる。

⑤ 自分の子供が望んでいる就職ができる。
⑥ 社会学部には十分な教育力があり、社会学部を卒業することで、社会人として生活していく基盤ができる。

二つの目標には他にも具体化した項目が考えられるが、社会学部は、それぞれの項目で具体化を進め、一歩一歩前進し続けることが、学部のブランド力の向上につながると考えている。青森大学ニュースにおいて、社会学部の教育内容、学生の活躍の状況、教員の研究発表などを積極的に記事にして、学生、保護者、地域の自治体産業界などへのアピールしていくことは、学部のブランド力が社会に認識される重要なプロセスである。学部の教育研究内容の向上は必須であるが、本学部の現状は、十分にアピールできる教育研究内容となっていると考えられるkとから、青森大学ニュースはその教育研究の内容を知ってもらうための良い機会である。勿論、これからも教育研究内容の向上に努力していくが、ここに社会学部の現状を報告する。

（学部長　澁谷泰秀）

[国家試験対策委員会報告]

昨年度の本学の国家試験の結果は、社会福祉士の合格率 40%（全国平均 25.8%）、精神保健福祉の合格率 100%（全国平均 62%）と、両福祉士共に全国平均を上回る結果となりました。これもひとえに受験した学生の不断の努力と、熱心に受験対策をしていただいた先生方の賜物と考えております。

今年度の国家試験は平成 30 年 2 月 3 日（土）精神保健福祉士専門、4 日（日）精神保健福祉士・社会福祉士共通、社会福祉士専門で実施される予定です。本学の受験予定学生は、社会福祉士 6 名、精神保健福祉士 4 名、うちダブル受験 3 名です。

今年度は昨年同様、実習室を受験予定者へ開放し、各自若しくはグループで受験対策を行っております。また、3・4 年生を対象に、前期 6 回にわたって実施される共通科目の学内模擬試験と自主勉強会、後期 4 回にわたって実施される専門科目の学内模擬試験、さらに 8 月 21 日（月）～25 日（金）に実施される「通い合宿・自主勉強会」、10 月 20 日（金）～21 日（土）の 4 年生を対象とした全国統一模擬試験などを実施いたします。その他、受験予定者からの要望を受ける形で苦手科目の特別講座等も不定期に実施する予定です。

今年度も昨年度同様、両福祉士共に全国平均の合格率を上回る結果を出せるよう、受験学生のサポートをし、一人でも多くの学生が合格できるよう、最後まで指導していきます。(長内直人)

[精神保健福祉援助現場実習報告]

平成 29 年 2 月に 7 名の学生が「ほのぼの寮」と「ハートフレンド」で 5 日間の予備実習を終えました。平成 29 年度は 8 名の学生が精神保健福祉援助実習を予定（1 名は昨年度からの継続）し、第 1 段階実習 5 日間を 6 名の学生が終えました。ただ 1 名の学生は、体調不良で中止しました。

第 2 段階実習は、夏季休業期間を中心に医療関係機関 12 日間と障害施設関係機関 12 日間行う予定になっていますが、既に 2 名の学生は医療関係施設の実習も終了しました。また、行政機関実習を 2 名の学生が現在実施しており、8 月初旬までの予定です。

学生にとって現場実習の体験は初めてであり、悩んだり行き詰ったりなど悪戦苦闘しています。

これからの第 2 段階実習は 24 日間という長期間であり、体調管理も重要になってきますし、意欲が問われるところです。

(藤林正雄)

[ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ]

平成 29 年度は 9 名（4 年生 2 名、3 年生 7 名）の学生が、ソーシャルワーク実習Ⅰ（5 月 22 日（月）～5 月 26 日（金）合計 5 日間）、ソーシャルワーク実習Ⅱ（8 月 22 日（月）～9 月 8 日（金）合計 20 日間）合計 25 日間の実習を、6 か所の実習先で行い、ソーシャルワーク実習Ⅰの実習が無事修了しました。夏休み中からはソーシャルワーク実習Ⅱの実習が開始されます。

実習指導に関しましては、昨年度より実習指導Ⅰによる実習先についての基礎知識の習得や実習に臨むにあたっての心構え、綿密な実習計画の作成等、今年度の実習本番に向けての事前準備にはかなりの時間と労力をかけてきました。そして現場での実践的な体験を通して新たな知識・技術を習得すべく、実習生達は一所懸命に励んでおります。

(長内直人)

[青森山田高校３年生による社会学部授業体験会]

6月13日に青森山田高校3年生の2クラス（約50名弱）が大学に来訪して社会学部の３つのゼミの授業を体験しました。3つのゼミとは、柏谷先生・木原先生の「桜祭りのフィールドワーク」と藤先生の「まちづくりの三視点：子育て支援・異文化理解・地域の自然」と宮川先生の「「不自由さ」を体験してみよう」です。社会学部のゼミの授業では具体的にどういうことを行っているかを知るために事前に高校生に希望を取って、当日、3つのグループに分かれて体験授業に参加してくれましたが、「社会学部の授業ではどういうことをしているかがわかって参考になりました」などの感想が出ていました。

[平内町の自然の魅力を伝えるパネルを作成中]

社会学科2～3年対象の「環境社会学I」では、地域の環境問題を考える題材として平内町浅所海岸を取り上げている。

浅所海岸は北東北最大の干潟で、「小湊のハクチョウおよびその渡来地」は国の特別天然記念物に指定されているだけでなく、ハクチョウだけでなくさまざまな生物の生息地になっています。また、漁業や潮干狩り、白鳥信仰などを通じて、地域住民の生活とも密接に関わっている。この授業では、平内町教育委員会の「ハクチョウのまち再生事業」と連携しながら、学生に自然環境と人間との関わりを考えてもらうとともに、地域の魅力の再発見や地域課題の解決に貢献することを目指している。

4月からの授業では、担当者による講義のほかに、平内町教育委員会の担当者による講演、現地見学 (ガイドツアーとごみ拾い体験。写真参照) などを行った。学生たちは現在、観光客などにハクチョウの生態や浅所海岸の自然について解説するボランティア「白鳥ガイド隊」の説明用パネルの作成に取り組んでいる。

7月12日と19日には、教育委員会の担当者やガイドを招いて、学生が作成した説明パネルのプレゼン

テーションを行う予定である。また後期の「環境社会学II」では、浅所海岸の自然やハクチョウを活かした地域づくりや地域課題解決にむけた企画提案を計画している。(柏谷・藤)

[道の駅いまべつとの連携活動]

青森大学が 2015 年に「道の駅いまべつ」と締結した連携協定に基づき、社会学演習Ⅲ（3 年生）、Ⅴ（4 年生）の履修者が、同道の駅の振興に関する本年度の調査を開始した。5 月 11 日には学生 2 人が同駅を訪れてフィールドワークを行うとともに、「荒馬の里資料館」や町役場、さらには今春、青森公立大学の学生が就職した海産物製造会社「袰月海宝」を回って聞き取り調査をした。

その後、学生たちは「自転車・レンタサイクルの使い勝手の向上」などに着目して、資料収集や現地調査を重ねている。年度末までに、第 3 回の提言をまとめるなどの活動を行う。（櫛引）

［ 学術論文・著書 ］ (五十音順)

櫛引素夫　「整備新幹線をめぐる沿線の『自己評価』について―新しい独自の指標づくりは可能か―」、地域社会研究、弘前大学地域社会研究会／弘前大学大学院地域社会研究科監修、(10)、2017. 3、pp. 69-76.

中村和生　「「不十分な」助言の十分な達成－電話相談における<助言者 - 相談者>という装置」『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』水川喜文・五十嵐素子・秋谷直矩（編）, pp. 44-65. 2017.

［ 学会発表など ］

櫛引 素夫「青森市・幸畑団地における転入者の実態調査試行―住民との協働に基づく大学の教育・地域貢献活動」、日本地理学会春季学術大会、2017 年 3 月 28 日、筑波大学.

「教育・研究と地域貢献活動の融合―『道の駅』、JR東日本との連携から」、日本地理学会春季学術大会、2017 年 3 月 28 日、筑波大学（地域連携活動研究グループ発表）

西山弘泰、由井義通、若林芳樹、櫛引素夫「空き家管理事業の展開とその可能性」、日本地理学会春季学術大会、2017 年 3 月 28 日、筑波大学.

[報告書・書評・寄稿など]

柏谷　至　「青森県に生活する若者の自己有用感」青森県教育庁生涯学習課(編)『若者の学習・生活体験と県内定住に関する県民の意識調査報告書』(平成 28 年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業) 青森県教育長生涯学習課, 2017 年, 第 3 章 II (p.33-39).

櫛引　素夫　「道南・青森県圏の『これまで』と『これから』」、月刊地理、62（3）、pp.2-9、2017.2

NPO 法人ひろだいリサーチ、青森大学社会学部・櫛引研究室「地域社会・企業を通じて考える青森県内で『働く・生きる』ことのポテンシャル研究」事業実施報告書、p58、2017.2

「地域政策形成へのステップ－メディア・留学生を中心に－」、JSPS 科研費・基盤研究（C）成果報告書「人口減少社会と外国人・移民政策 ～青森県を事例として～」（佐々木てる研究代表）、

pp.71-95、2017.3.

「北海道新幹線開業に伴う青函地域と住民の意識変化と提言」、平成 28 年度青森学術文化振興財団助成事業成果報告書、p48、2017.3.

「新幹線の来し方と行方」、地域調査士通信第 5 号「地域調査の現場」第 5 回、pp.3-4、日本地理学会、2017.4.

☆東洋経済オンライン連載「新幹線は街をどう変えたか」

「『道の駅』来場 55 万人! 新幹線で変わる木古内－人口減少や高齢化が進む地域の可能性」、2017 年 2 月 7 日.

「『新幹線は高い』青函間にフェリー復権の兆し－乗客増加、安さと速さで新幹線と棲み分けか」、2017 年 3 月 12 日.

「北海道新幹線 1 年、道南に『東北化』の兆し－ダイヤ改正で青森－函館はさらに遠く」、2017 年 3 月 30 日.

「北陸新幹線『東北とひと味違う』駅前の開拓術－開業から 2 年「特需」が一段落した信越の今」、2017 年 4 月 6 日.

［ 出張講義・講演など ］ （五十音順）

柏谷　至　「なぜ住宅の省エネか? ～環境・家計・地域の視点から～」，特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森「市民講座：明るく・暖かく・楽しい省エネ住宅づくり」2017年3月3日，青森市.

「その“決め方”でいいですか? ～新社会人となる皆さんへ」，三沢市選挙管理委員会「三沢市明るい選挙出前講座」2017年3月23日，三沢市.

「青森市におけるコミュニティ・パワー普及に向けて」，特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森「省エネ・再生可能エネルギー推進のためのセミナー」2017年3月27日，青森市.

「再生可能エネルギーを 活かした地域づくり ～北東北小水協に期待するもの～」，北東北小水力利用推進協議会 第2回総会記念講演, 2017年5月26日，秋田県鹿角市.

櫛引　素夫　「公開フォーラム・北海道新幹線は青函圏をどう変えるのか」開催（青森学術文化振興財団・平成28年度助成事業、青森大学付属総合研究所と共催、2017年1月28日、新町キューブ）

青森地方気象台講演「『防災』と地域をどう結ぶか」、2017年2月14日、同気象台.

青森県委託事業「地域社会・企業を通じて考える青森県内で『働く・生きる』ことのポテンシャル研究事業」発表会開催、2017 年 2 月 16 日、青森大学、NPO 法人ひろだいリサーチと共催.

「幸畑ヒルズと青森大学のこれまでとこれから」、2017 年 2 月 18 日、青森大学・第 4 回青森地域フォーラム、青森市しあわせプラザ.

「『かがやき』をどう超えていくか－人口減少下の北陸新幹線活用法をめぐって」、2017 年 2 月 20 日、上越市議会講演、同市議会.

NPO 法人クリエイト・2016 年度成果発表会審議員、2017 年 3 月 12 日、アウガ.

北海道新幹線開業1周年記念フォーラム基調講演「道南と東北・青函の将来像－北海道新幹線の開業効果と今後の課題について」、2017 年 3 月 25 日、函館市・ホテル函館ロイヤル.

青森青年会議所・あおもり未来サミット「人口減少社会にどう向き合うか－青森市の『今』と『未来』」、2017 年 4 月 16 日、サンロード青森.

青森法人会経理研究会・第 361 回月例会「新幹線ネットワークを考える－北海道新幹線の開業効果と今後の課題について」、2017 年 4 月 18 日、青森県食糧会館.

新潟県知事タウンミーティング「鉄道と連携した地域活性化」コーディネーター、2017 年 4 月 24 日、上越市.

木古内町観光協会学習会講演「交流観光拠点としての木古内の役割」、2017年6月9日、木古内町・古川屋.

北海道新幹線建設促進期成会・講演「『札幌・北海道2013年』に向けて」、2017年6月21日、札幌市・ニューオータニイン札幌.

［ **地域活動** ］ (五十音順)

柏谷　至　青森県生涯学習審議会 (第13期) 委員長、鹿角市新エネルギー利活用促進協議会 委員長、青森市地球温暖化対策地域協議会 委員、青森県明るい選挙推進協議会 委員、大鰐町地域公共交通会議 委員.

「青森交通圏タクシー準特定地域協議会」「弘前交通圏タクシー準特定地域協議会」「八戸交通圏タクシー準特定地域協議会」会長.

特定非営利活動法人グリーンエネルギー青森 副理事長、特定非営利活動法人 アニマルサポート青森 監事、北東北小水力利用推進協議会 理事.

櫛引　素夫　青森地方労働審議会委員、青森労働局労働関係紛争担当参与、青森地方最低賃金審議会委員（～2017 年 3 月）、青森県中山間地域対策協議会委員、青森県人口減少社会対応型商店街構築事業・戦略策定委員会委員（～2017 年 3 月）、JAF青森支部交通安全実行委員長、青森市いじめ防止対策審議会会長（～2017 年 5 月）、NPO 法人青森県防災士会理事、NPO 法人ひろだいリサーチ理事、幸畑団地地区まちづくり協議会運営委員.

ソフトウェア情報学部

[平成 28 年度卒業研究発表会]

平成 29 年 2 月 17 日(金)9:00～14:40 に本学 5 号館 5102 教室で卒業研究発表会が開催され、10 研究室に所属する 23 名の学生が発表を行った。情報システム、CG・マルチメディア、ロボット・組込みシステム等の各々の分野で 1 年間の間取り組んできたテーマについて、実演を交えながらプレゼンテーションが行われた。発表に対して、学生、教員から多くの質問が出され活発な質疑応答がなされた。

発表者と研究テーマ

堀端研究室

諏訪 裕哉　盤面生成プログラムの視覚化

久崎 孔明　フリンジ制限を加えた 15 パズルの視覚表現

李研究室

五十嵐 翔　乗捨てレンタカーの回送問題　－跳び石法による解法－

安達 健太　乗捨てレンタカーの回送問題　－ポテンシャル法による解法－

友田研究室

石川 裕大　ギター用 TAB 譜作成ソフトの開発

佐藤 寿南　ドラムパート編曲ソフトの開発

坂井研究室

伊藤 弘迪　ドローンを用いたプログラミング教材の開発

根本 暉大　仮想空間における関係構築システムの開発

角田研究室

工藤 貴裕　大規模な街並み再現

小久保研究室

澤田 洋二　水環境健全性指標活用のための Web アプリの開発

新宅 伸啓　光の岬ゲーミフィケーションアプリの開発

和島研究室

葛原 尚人　地震シミュレータの開発

橋本 武宗　リアルと Web チャンネルの連携したプロモーション

緑川研究室

田中　希　青森県と秋田県の教員採用試験の違い

村下 直光　青森県と秋田県の「教員採用試験」の解答づくり及び傾向について

富岡　新　誰でも簡単に HP を作れる HP 制作

宮崎 広大　誰でも簡単に HP を作れる HP 制作

紅林研究室

佐藤 嶺　　究極の猫じゃらしアプリの開発

村上 開理　　色鮮やかなカオスアートの描画手法

矢萩研究室

澤田 晃樹　　トスマシーンの設計・制御

三浦 英太　　茶運び人形の製作 Ⅳ

齋藤　司　　上半身ロボットの改良と制御

村井　典　　二足歩行ロボットの制御システムの製作

[学生による研究発表(芸術科学会東北支部大会 1/28)] (角田 均、小久保 温、和島 茂)

1 月 28 日に盛岡市のいわて県民情報交流センターアイーナで開催された平成 28 年度芸術科学会東北支部大会で、ソフトウェア情報学部 4 年生の新宅伸啓君が卒業研究で開発した発達障害児のための目標設定アプリ「ぐんぐん」の取り組みについて研究発表を行いました。

「ぐんぐん」はゲーミフィケーションのしくみとクラウド・タブレットを応用した発達障害児のための生活サポートシステムで、株式会社リンクステーションとの共同でソフトウェア情報学部の学生が開発しています。2016 年度から弘前市の NPO 法人「光の岬福祉研究会」の協力のもと、実証実験に取り組んでおり、昨年度の実証実験では新聞各紙に大きく取り上げられました。

今年度の研究では、昨年度から引き続き研究を担当する 4 年生の新宅君と、今年度から新たに担当の 3 年生の加藤秀斗君が共同で開発を行いました。施設を訪問して支援者の方から直接ヒアリングを行うなどしながら昨年度のシステムの問題点や課題を明らかにし、それを改善することで新たなシステムを構築、改めて実証実験に取り組んでいます。

今回の発表では特にシステムの改善点や、児童のモチベーションを高めるためのデザインやゲーム性の向上について報告を行い、会場からもたくさんの質問や意見が出されました。

この研究プロジェクトは平成 28 年度の大川情報通信基金の研究助成を受けて進めています。

[青森 IT ビジネス・マッチング交流会(2/14)] (角田 均、小久保 温、和島 茂)

2 月 14 日、青森駅前のワ・ラッセで「青森 IT ビジネス・マッチング交流会」が開催され、青森大学ソフトウェア情報学部の学生が展示やプレゼンで活躍しました。また、今年度、文化祭の情報発信で連携した青森商業高校の高校生がその取り組みを紹介したり、青森大学が技術指導で協力した青森工業高校の課題研究が展示されました。

「青森 IT ビジネス・マッチング交流会」は、青森県が中心となり産官学が参加している新時代 IT ビジネス研究会の成果報告と関連諸団体の展示のイベントです。今回、高校生、専門学校生、大学生、IT 企業、自治体職員など多数の参加があり、盛り上がりました。青森大学からは、発達障害の児童の生活の指導のためのアプリを出展しました。また、このアプリに関して、開発を担当したソフトウェア情報学部 3 年生の加藤秀斗くんが発表しました。さらに、ソフトウェア情報学部 4 年生の澤田洋二くんが、学生生活を通じて、地域の IT のコミュニティ活動に参加して学んだことを、メッセージとして発表しました。

青森大学は、青森山田高校、青森商業高校、青森工業高校をはじめ、地域の高校と連携しています。今回、

青森商業高校と連携して高校生と大学生が協力して取り組んだ文化祭の情報発信について、高校生が発表しました。また、青森工業高校からは、青森大学が技術指導で協力した課題研究の成果である観光 AR スマートフォンアプリや Kinect を利用して運動とパズルを組み合わせたゲームを展示しました。また、今年度の夏から Google のご協力のもとに、ソフトウェア情報学部が青森商業高校や青森工業高校と連携して実施している、スマートフォンアプリの開発講座である東北 TECH 道場青森道場について、活動の紹介と運営への協力のお願いのプレゼンを行いました。

青森大学からは、教員・学生が多数参加して、IT 関連産業や青森県などの自治体のみなさんと交流を深めました。

[青森県オープンデータ利活用人材育成事業(2/8-10)] (角田 均、小久保 温、和島 茂)

2 月 8 日(水)-10 日(金)に、オープンデータを活用するアプリの開発方法を学ぶ、青森県オープンデータ利活用人材育成事業が青森大学で開催され、ソフトウェア情報学部 2 年生約 20 名が受講しました。

「オープンデータ」とは、誰でも自由に利用できるデータのことです。自治体の保有するデータをオープンデータとして公開する動きが国際的に高まっています。そして、公開されたデータを活用できる人材が求められています。

今回、青森県オープンデータ利活用人材育成事業が、青森大学でソフトウェア情報学部の 2 年生を対象に実施されました。講師は、八戸市の IT 企業ジーアイテックの現場で技術者として活躍されている岩沢健之助さ

んと向井誠仁さんです。

講座は 2 月 8 日(水)-10 日(金)の 3 日間 9:00-16:10 に行われました。講座では、オープンデータとは何か、オープンデータを Web アプリケーションや Android アプリケーションから利用するプログラム、プログラムで地図を表示することができる Google Maps API、プログラムから利用するのに適したオープンデータのデータ形式(JSON と XML)などを学びました。そして、オープンデータを活用したアプリやサービスのアイデアをグループで考え、可能であればデータやアプリの制作に挑戦しました。そして、最後に発表会を行いました。講座では、それぞれのグループが大変真剣に開発に取り組み、講座の内容をどんどん吸収し、講師や青森県庁の職員の方からも大変高い評価をいただきました。

今回出たアイデアは以下のようなものでした。

[青森県 VS 全国]

青森が全国一番の項目と全国最下位、あるいはその反対を比較して、地域を考えるサービス

[青森図書館探索マップ]

青森県の図書館を知り、本との出会いを深めるサービス

[青森温泉十選]

青森県の温泉ベスト 10 を紹介するサービス

[選ぶ公園]

青森県の公園をさまざまな条件で検索できるサービス

[日本の絶景ポイント]

日本全国から選りすぐりの絶景ポイントを紹介するサービス

[青森県サクラマップ]

青森の桜まつり、春まつりのさまざまな情報を紹介するサービス

講座を受講したみなさん、講座で学んだ JSON や XML などのデータ形式、JavaScript や Android から Google Maps API を利用する方法などは、現在のアプリやサービスで大変よく用いられています。是非、今回の講座をきっかけとして、より深く内容を学んで、すばらしいアプリやサービスを開発してください。

［発達障害児のための生活支援システム実証実験ヒアリング（2/16）］（角田 均、小久保 温、和島 茂）

青森大学ソフトウェア情報学部の学生が開発した発達障害の子どもの生活支援アプリが、東奥日報2月17日(金)朝刊 24 面で「発達障害児の生活訓練補助アプリ 課題自由に作成可能青大生が弘前で説明会」として、2 月 24 日(金)朝の NHK「おはよう日本」と青森局「おはよう青森」と BS1「BS 列島ニュース」などで「発達障害児支援のアプリ開発」として取り上げられました。

青森大学ソフトウェア情報学部と社会学部は、青森の IT 企業・株式会社リンクステーションと連携し、IC カードを利用した取り組みを 4 年前から行っています。昨年度からは、弘前市の「光の岬(さき)福祉研究会」にご協力いただき、発達障害の子どもの生活支援アプリの実証実験を行っています。

アプリでは、施設に放課後に通う子どもたちがその日に取り組む内容を、施設のスタッフがあらかじめ用意しておきます。そして、子どもたちが施設に来ると、施設のスタッフと一緒にそれを確認し、帰るときにどのくらいできたかを登録します。できた状況に応じて、ゲームのように経験値が得られます。経験値がたまると、ロボットのパーツをもらうことができ、ロボットを組み立てていき、ロボットをコレクションすることができます。これにより、楽しんで自分の課題に取り組んでもらおうというものです。また、その記録は、施設のスタッフだけでなく、保護者もスマホを使って見ることができ、子供たちの様子を知ることができます。

今年度は、12 月から 2 月までの 3 ヶ月間実証実験を行っています。今回、2 月 16 日に、施設のスタッフと保護者からアプリを使った感想や意見をヒアリングする説明会を実施、東奥日報や NHK からの取材を受け、その様子が報道されました。

今回のアプリは、ソフトウェア情報学部 4 年生の新宅伸啓君と 3 年生の加藤秀斗君が協力し、ソフトウェア情報学部や社会学部の教員の指導を受けながら、株式会社リンクステーションの技術協力の元に開発しました。アプリケーションは、子どもが使用する Android タブレットと施設の方や保護者が使用する Web アプリケーションで構成されています。Android タブレットは、NFC カードで子ども個人を識別し、Web アプリケーションが提供する REST API とデータをやりとりし、動作します。NFC カードの認識については、株式会社リンクステーションの技術指導を受けています。Web アプリケーションは、Web アプリケーションフレームワークの Ruby on Rails を用いて開発され、高度なレンタルサーバーであるクラウド PaaS の Heroku で運用しています。Web アプリケーションの画面の構成には、Bootstrap を用いてレスポンシブ Web デザインを取り入れ、施設のスタッフや保護者が PC でもスマートフォンからでも、便利に使えるようになっています。アプリは、「桃太郎」をモチーフにしたデザインになっていて、桃太郎のお供のイヌ・サル・キジのロボットを組み立てていきます。ロボットはそれぞれ 3 段階に進化します。ロボットのデザインは、株式会社リンクステーションのデザイナーが担当しています。

なお、この研究は、今年度、大川情報通信基金の研究助成を受けて実施しています。また 1 月 28 日(土)に岩

手駅前のアイーナで開催された芸術科学会東北支部大会で新宅君が研究発表を行い、さらに 3 月 17 日(金)名古屋大学で開催される情報処理学会全国大会で加藤君が研究発表を行いました。

[学生による研究発表(情報処理学会東北支部研究会 2/20)](角田 均、小久保 温、和島 茂)

2 月 20 日(月)に弘前大学で平成 28 年度第 6 回情報処理学会東北支部研究会が開催されました。研究会では青森大学ソフトウェア情報学部 3 年の工藤誠也くんが、「水環境の観察記録を公開するウェブ・アプリケーションの開発」というタイトルで発表を行いました。弘前大学の大学院生が多い発表者の中で、唯一の 3 年生として堂々と発表しました。

今回の発表内容は、環境省が策定した「水環境健全性指標」を用いた環境調査(「水しるべ調査」)の調査結果をインターネットで公開、共有するためのサービスの開発に関するものです。小学校や NPO などで水しるべ調査を活用した自然観察のワークショップなどを実施したときに、教諭や職員やボランティアなどのワークショップの指導者が利用することを想定しています。

3 月に開催された水環境学会の年会では共同研究者の 4 年生が発表し、さらに今回発表したサービスに関する研究集会を青森大学のグループと水環境学会東北支部の合同で開催しました。

サービスは Web アプリケーションフレームワークの Ruby on Rails を用いてサーバーサイドを構成、HTML5/CSS3/Bootstrap などを用いて画面をデザイン、jQuery/Google Maps API/D3.js などを用いてデータを取得、地図やグラフを描画しています。サービスはクラウド PaaS の Heroku での運用ができるようになっています。

[インターナショナル・オープンデータ・デイ 2017 in あおもり(3/4)](角田 均、小久保 温、和島 茂)

先週 3 月 4 日(土)に、オープンデータの世界同日イベント「インターナショナル・オープンデータ・デイ 2017」が世界 342 都市(うち、日本 65 都市)で開催されました。青森県では弘前、青森、八戸の 3 都市をつないで、産官学が連携して開催しました。青森市の会場は青森大学です。青森大学ソフトウェア情報学部や社会学部の学生・教職員、青森商業高校と青森山田高校の高校生、地域の IT 企業、NPO、青森県庁、青森市役所のみなさんなど、総勢 33 名が集まり、オープンデータに関するワークショップを体験しました。青森県全体での参加者は 74 名となりました(弘前 22 名、青森 33 名、八戸 19 名)。

「オープンデータ」とは「誰でも自由に利用できるデータ」のことです。近年、行政の持つデータを、オープンデータ化する動きが国際的に高まっています。「インターナショナル・オープンデータ・デイ」は、オープンデータの普及・啓発を目指して毎年春に開催されている世界同日イベントです。2013 年から日本からの参加がはじまり、青森もこのときから参加しています。

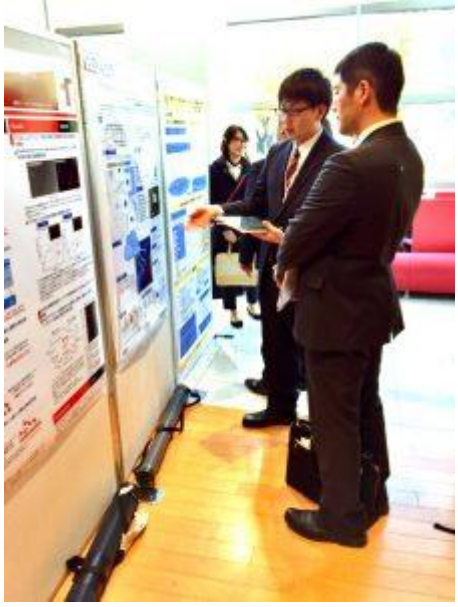
今回、最初に弘前・青森・八戸の 3 都市を中継で結んで、あおもり地域データ活用コンソーシアムの米田剛代表からあいさつがあり、その後、それぞれの会場の様子が紹介されました。それに続き、各会場にわかれてワークショップが開催されました。青森市の会場では、あおもり地域データ活用コンソーシアムの認定データ活用アドバイザーがファシリテーターやサポートをつとめ、観光オープンデータを活用してアプリで推しの観光ルートを作る「観光ルートソン」、「広報あおもり」に掲載されている情報をもとにアプリの企画を考える「広報あおもりソン」の 2 つのワークショップが行われました。ワークショップ終了後、ふたたび 3 都市間で成果が共有されました。青森会場からは、「観光ルートソン」の成果より、はるか縄文から宇宙世紀の未来に至るまでの関連観光スポットを結んだ「県南の時をかける」観光ルート、「広報あおもりソン」の成果から、毎年青森市浪岡の中世の館で開催されている「雪女コンテスト」をフィーチャーした変身機能を備えた「伝説の雪女アプリ」の 2 つを発表しました。最後に、青森大学ソフトウェア情報学部・角田教授から全体の講評があり、閉会しました。

このイベントを通じて、多くの人がオープンデータに親しみを持ち、データをもとに、わたしたち自身の地域、生活、未来を考えるきっかけにしていただければ幸いです。

[学生による研究発表（日本水環境学会年会 3/15)]（角田 均、小久保 温、和島 茂）

3/15-17 に熊本大学で開催された第 51 回日本水環境学会年会でソフトウェア情報学部 4 年生の澤田洋二君が研究発表を行いました。

澤田君が 3 年次の創作ゼミナールと 4 年次の卒業研究会で 2 年間開発に取り組んだ、水環境健全性指標(水しるべ調査)の調査結果を可視化するシステムについて、ポスターセッションとオーラルセッションの両方で発表しました。水環境健全性指標は環境省が水環境学会と共同で開発した、学校での総合学習や地域住民、NPO などが実施する環境学習など、地域における環境学習で活用することができる水辺の環境のすこやかさを示す指標です。一般的な水質調査とは違い、川の自然なすがた、生き物、水のきれいさ、快適さ、普段の生活での利用など、人の視点から川を取り巻く環境を評価する指標になっています。澤田君が開発した Web アプリでは、調査データをアップロードすることで、誰もがグーグルマップ上にレーダーチャートとして調査成果を登録でき、また閲覧することができるようになっています。このアプリを使うことで、より多くの人が水しるべ調査の成果を共有し、それによって指標の普及を促進、環境学習を活性



化する取り組みとして、青森大学が水環境学会東北支部との共同で進めている研究です。

初日のポスターセッションでは、開発したアプリのしくみや特徴、このアプリを使うことで得られるメリットなどを、水環境の研究をメインにする参加者にもわかりやすく、タブレットを使って実際にアプリを使ってもらいながら説明しました。2 日目のオーラルセッションでは、共同研究者の三上氏によるこのアプリを使った中学校の環境学習の実践事例紹介の中で、中学生による水しるべ調査の結果をアプリに登録して閲覧できるようにした成果のデモンストレーションを担当しました。

さらに今回の学会期間中、澤田君が開発したアプリの全国的な活用、普及を検討するワークショップを「水環境健全性指標のための情報共有プラットフォーム構築」と題して、青森大学と水環境学会東北支部の共同で開催、全国の研究者、自治体、企業からの参加者と意見交換を行いました。ワークショップの成果として、このアプリを使って全国の水しるべ調査の成果を登録、共有する大規模な実証実験が提案され、2017 年の夏以降の実施を目指して計画を進めることとなりました。

澤田君はこの 3 月に卒業したので、研究は現在の共同研究者である 3 年生の工藤誠也君と、新たに研究室に配属される来年度の 3 年生に引き継がれることになります。

[学生による研究発表（情報処理学会全国大会 3/16)]（角田 均、小久保 温、和島 茂）

3 月 16 日(木)-18 日(土)に名古屋大学で開催された情報処理学会全国大会で、ソフトウェア情報学部の学生と教員がそれぞれ発表を行いました。発表を行ったのは、ソフトウェア情報学部 3 年・加藤秀斗くん、小久保温准教授です。

加藤くんは、株式会社リンクステーションと連携し、ソフトウェア情報学部と社会学部の教員の指導のもと、4 年生の新宅伸啓くんと一緒に発達障害の児童の生活の指導アプリを開発しました。そして、発達障害の子どもが放課後に通って指導を受けている、弘前市の福祉法人・光の岬(さき)福祉研究会のご協力により、4 人の児童を対象に、12 月からおよそ 3 ヶ月間、実証実験を実施しました。

アプリでは、施設のスタッフがそれぞれの児童に合わせてその日に取り組む課題を設定し、児童が来所するとアプリを使って一緒に確認します。そして帰るときに、課題がどのくらいできたかを、スタッフと児童が一緒に確認します。課題ができるともらえるポイントを使って、ロボットのパーツをもらって組み立てていく、ゲームを楽しむ

ことができるようになっています。ゲームは桃太郎をモチーフとしたデザインになっており、お供のイヌ・サル・キジのロボットを組み立ててコンプリートを目指すストーリーになっています。

児童の反応は大変よく、アプリを入れたタブレットを「桃太郎パッド」という愛称で呼ぶようになったり、来所する際の楽しみとなり、大学側の予想をはるかに上回るペースで活用されました。また、保護者が児童の状況を見ることができるしくみも作りました。

今回の学会発表では、どのような発達障害の児童を対象にしているのかという質問や、施設の人・児童・保護者の 3 者をつなぐ取り組みとなっていて、実際に長期間使用できているところがよいというコメントをいただきました。

小久保准教授の発表は、アンケートなどの社会調査をインターネットで行うときの課題を調べたものに関するものでした。この研究は、社会学部・澁谷泰秀教授、秋田県立大学・渡部諭教授、奈良大学・吉村治正教授らとのこれまでの一連の研究の一つです。インターネットで社会調査を行うと、郵送で調査用紙を送付して回答してもらった場合と傾向が異なると言われています。それはインターネットで回答する人はインターネットをよく利用する人だったり、インターネットを使うことによって紙に書く場合と異なったことを回答してしまう可能性があるのではないかと言われていました。これは、従来のインターネット調査が、インターネットで回答を呼びかけたり、調査会社に自分から登録している人を対象に実施されたものが多いからかもしれません。そこで、成人から無作為に調査対象者を選び、社会調査への協力をお願いし、その理解が得られた場合に、インターネットか、郵送で質問紙に回答していただけるように依頼するという研究を続けています。

これまで、回答が得られた割合、インターネットの場合には更に回答に使用した機器、回答にかかった時間などの分析を行ってきました。今回の学会では、回答内容を比較し、インターネットと郵送で質問紙に回答した場合で異なるが、年齢層ごとに比較すると異ならない。つまり、対象者を無作為抽出して調査を依頼した場合、インターネットと質問紙で回答内容は異なるが、それは回答者の年齢層の違いによるものではないかということが示唆されたことを発表しました。会場からは、研究内容に興味を持った、継続して調査した場合に年齢の高い層の傾向が今後どうなっていくか興味深い、地域性を知りたいというコメントなどをいただきました。

[学部オリエンテーション(4/5 - 4/11)] (角田 均、坂井 雄介、橋本 恭能、和島 茂、紅林 亘)

毎年、ソフトウェア情報学部では全学向けのオリエンテーションとは別に、学部の新入生向けに独自のオリエンテーションを実施しています。

新入生の皆さんが早い段階で「大学生モード」に切り替え、大学での生活になじめるように、最初の一週間、すべての専門科目の一コマ目の時間を使って、大学を理解するための様々な取り組みを行っています。内容は、同級生の仲間や先輩、教員とのコミュニケーションのとり方、上手な共同作業の進め方、講義に臨む姿勢や考え方、大学卒業までの目標の設定と学習計画など多岐に亘ります。

4/5(水) 大学での学習計画をたてる

4/6(木) コミュニケーションとグループワークの訓練(1)、数学基礎力テスト

4/7(金) コミュニケーションとグループワークの訓練(2)

4/10(月) コミュニケーションとグループワークの訓練(3)、在学生によるオリエンテーション

4/11(火) 基礎ゼミナール配属説明会

この一週間の取り組みを通して大学生活の基礎を身につけるとともに、社会で通用するエンジニアとしての基本姿勢(見方、聞き方、書き方、話し方、考え方)も学んでもらいたいと思います。

[青森山田高校特別授業(4/18 –)] (角田 均、堀端 孝俊、橋本 恭能、紅林 亘、坂井 雄介、矢萩 正人、緑川 章一、友田 敏章、李 孝烈)

ソフトウェア情報学部の教員と学生による、青森山田高校情報処理科の 2 年生と 3 年生向けの特別授業を今年も開始しています。

青森大学ソフトウェア情報学部では、青森山田高校との高大連携事業の一つとして、青森山田高校情報処理科の 2 年生と 3 年生を対象にした特別授業を昨年度から実施しています。ソフトウェア情報学部の教員が毎週高校に赴き、高校の課題研究の時間(2 年生は火曜の 3,4 時間目、3 年生は水曜の 3,4 時間目)を使って定期的な授業の形で実施しています。「ソフトウェア情報学への誘い」をテーマにソフトウェア情報学部の教員が交代

で担当、大学での講義の一部をわかりやすく実施したり、大学の研究室で取り組んでいる最先端の研究を紹介・体験してもらったりする取り組みです。

また青森大学ソフトウェア情報学部の特徴となっている「プログラミングを重点的に学ぶ」を体験してもらうために、ビジュアルなプログラミング環境「スクラッチ」を使ってゲームを作りながらプログラミングを学ぶ「ソフトウェア開発実習」を集中シリーズとして実施しています。

さらに、ロボット制御の技術を競う ET ロボコンにソフトウェア情報学部から毎年出場している研究室の教員が担当し、実習用ロボット「レゴ・マインドストーム」を使って実際にロボットを動かしながら組み込みシステムの制御を学ぶ「ロボット制御実習」のシリーズも実施中です。

授業には教員だけではなく、ソフトウェア情報学部の研究室から 3 年生、4 年生の学生がスタッフとして参加し、高校生の皆さんの実習をサポートしたり、時には講師役として講義を担当することもあります。ソフトウェア情報学部の学生が専門の講義や研究室で学んだことをもとに高校生の皆さんを指導することは、自らの知識・技術をより確実なものとし、格段に高めていくことができるので、大学生にとっても非常に価値のある取組みとなっており、また、ソフトウェア情報学部の研究と教育の機能の向上に資するものになっています。

この特別授業を通じて、高校生の皆さんがソフトウェア情報学の魅力に触れ、自分たちの将来の進路としての情報の分野のイメージをはっきりと持ってくれることを期待しています。

[青森商業高校との共同による Web マーケティングの研究(4/25, 5/16, 6/13, 7/11)] (角田 均、和島 茂)

青森商業高校情報処理科 3 年生と青森大学ソフトウェア情報学部 3,4 年生による共同研究として、青森市の老舗和菓子店「甘精堂本店」を対象とする Web マーケティングの研究を開始しました。

ソフトウェア情報学部では毎年、青森商業高校情報処理科 3 年生の課題研究の指導・サポートを行っています。今年度は情報処理科高大連携班 8 名の生徒さんと共同で、ソフトウェア情報学部角田・和島研究室 3,4 年生の Web マーケティング研究チームがサポートを担当、甘精堂本店の協力のもとでデジタルマーケティング全般の研究を共同で実施しています。

ソフトウェア情報学部ではこれまで、甘精堂本店の看板商品である「昆布羊羹」を海外に向けてプロモーショ

ンする研究プロジェクトを実施、甘精堂本店の英語版ホームページを作成したり(平成 26 年度)、青森に寄港するクルーズ船の外国人観光客への店頭プロモーションと SNS を連動させるキャンペーンを提案したり(平成 27 年度)、甘精堂本店との共同でディジタルマーケティングの研究を進めてきました。

今年度の研究では取り組みの範囲を広げて、甘精堂本店のデジタルマーケティング全般を対象に、商業高校生とソフトウェア情報学部の大学生それぞれが自分たちの専門分野の知識・技術を活かし、相互に補い合い、高め合うことで、より高いレベルの研究成果を目指しています。

5/16 の大学での合同実施では、ソフトウェア情報学部と共同研究を進めている株式会社リンクステーションから、特別講師として坂本知英氏を招き、生徒・学生の研究レビューを実施しました。坂本氏からはプロとしてのシビアなご指摘やご助言をいただくとともに、企業の現場で行われている Web マーケティングやプロデュースで重要なこと、またそれに取り組む心構えなどについて、貴重なお話をいただきました。

高校生と大学生が共同で地域の企業のことを学び、またその研究成果をもとに地域の企業の発展に寄与することを目指す取組みとして、継続的な高大連携の研究として進めています。

[Web アプリを用いた発達障害児のための生活支援システム開発(6/5)] (角田 均、和島 茂)

ソフトウェア情報学部の 3,4 年生の研究チームが弘前市のディサービス施設を訪問、施設のスタッフとの研究打合せを 6/5 に実施しました。

ソフトウェア情報学部では平成 27 年度から、Web アプリを用いた発達障害児のための生活支援システムの開発の研究に学生チームが取り組んでいます。弘前市の NPO 法人光の岬福祉研究会の協力のもと、開発したシステムを使って実際に児童の生活支援に活用してもらう実証実験を毎年行っています。従来にないクラウドシステムを活用した研究として注目されている研究で、昨年度と一昨年度の実証実験の際には多くのマスコミからの取材を受け、新聞やテレビのニュースにも数多く取り上げられました。

今年度も、昨年度から研究に取り組んでいる 4 年生と、新たに今年度から加わった 3 年生による新たな研究チームで 4 月から活動を開始、昨年度までの研究を振り返り、問題点や課題を整理して、新たなシステムの開発に取り組んでいます。今年度はこれまでのシステムで問題となっている、ゲーミフィケーションの応用における報酬の有限性の解消に取り組むため、モバイル端末のカメラ機能の活用や保護者・支援者によるコメント機能の実装に取り組む計画です。

今回はこれまでにチームで話し合ってまとめた取り組みのプランを持って、光の岬が運営する弘前市内のディサービス「ひかり」を訪問、現地のスタッフと内容の検討、意見交換を行いました。スタッフからはプランについて好意的な評価をいただくとともに、実際の運用する立場からの修正意見をたくさんいただくことができました。

今回の打ち合わせをもとにプランの詳細化、システムの設計を行い、年度後半での実証実験の実施に向けてシステム開発に取り組みます。昨年度までの成果を踏まえ、それを上回れるよう、研究チームにも期待がかかっています。

この研究は株式会社リンクステーション、社会学部、八戸工業大学との共同研究で進められています。

[大学生による小学生向けプログラミング体験教室準備(6/12)] (角田 均、和島 茂)

ソフトウェア情報学部の学生による小学生向けのプログラミングセミナーについて、6 月 12 日に荒川小学校で打ち合わせを行いました。

ソフトウェア情報学部では学部の教育内容の中核である「プログラミング」について、大学生が学ぶだけではなく、プログラミングを学んだ大学生が高校生や中学生の初学者を対象にプログラミングを教える「プログラミング教育」を重要な研究テーマとして長年取り組んできています。毎年、プログラミング教育を研究テーマに選んだ学生による、青森山田高校や青森工業高校の生徒向けのプログラミングセミナーを実施、授業計画の立案から講義資料の作成、当日の指導やサポートまですべて学生が運営しています。また 3 年生と 4 年生の共同研究として取り組むことで、前年度の実施状況や受講した生徒からのアンケートを元に内容の改善を図り、初学者向けの効果的なセミナーの企画、プログラミング教材の開発を進めています。

今年度は高校生向けのセミナーに加えて、小学生を対象としたプログラミングセミナーを、青森市教育委員会、荒川小学校放課後こども教室、(株)ソフトアカデミーあおもりとの共同で夏休みに開催する計画を進めています。2020 年度からの初等教育でのプログラミング必修化を控えて、多くの小学校で課題となっている児童へのプログラミングの指導について、地域の産・官・学が協力しながらプログラミングの指導者を育て、教材や教育課程を構築することを目指す取組みです。

今回は実施対象(予定)の青森市荒川小学校に伺い、当日のスケジュールや内容の難易度の検討、小学生にもわかりやすい授業の進め方など、小学校の先生方や教育委員会の担当者からのヒアリングなどを行いました。また実施会場のソフトアカデミーあおもりの教室の下見も行いました。今回のヒアリングなどをもとに、大学生にとってもこれまで体験のない、小学校の児童を対象にした授業のために、これまでのセミナーの内容や教材をすべて見直し、小学生にもわかりやすく、楽しめる授業を組み立てるために準備を進めることになります。

高度化する情報化社会における必須の能力としての IT を学ぶことにとどまらず、論理的な思考力やデザイン能力、ものづくりに対する姿勢など、小学生たちがプログラミングを通じて様々なことを学び、楽しんでもらえるセミナーにできるよう、企業と自治体、大学が協力して計画を進めています。

大学生が中高生に、高校生が小学生にプログラミングを教える動きは各地に広がっています(「プログラミング

年齢近い「先生役」-大学生が中高生に 広がる体験授業-」 朝日新聞朝刊 6 月 16 日)。

[IoT キックオフセミナー参加(6/19)] (角田 均、和島 茂)

青森県主催 IT イベント「IoT キックオフセミナー 2017」(6 月 19 日、青森国際ホテル)にソフトウェア情報学部の 3、4 年生 13 名が参加、企業や自治体の参加者と交流しました。

セミナーでは青森県の三村知事による IoT 推進宣言に合わせて、ドローンによる宣言文掲示のデモンストレーションが行われました。続いて YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所所長の坂村健氏による基調講演が「IoT で変わる社会-IoT の現状と将来、地方での活用ヒント-」と題して行われ、IoT を活用した新たなサービスの構築やビジネスの創出、そのために必要とされる人材の育成など、世界の IoT 分野を牽引する第一人者からのお話を聞くことができました。坂村氏と IT ビジネス研究会会長の香取氏によるトークセッションに続けて、セミナーの後半では今年度青森県で予定されている様々な IT イベントや取り組みの紹介が行われ、ソフトウェア情報学部が青森工業高校、青森商業高校、青森県と共同で進めている Android アプリケーションの開発セミナー「東北 TECH 道場 青森道場」のアナウンスを青森工業高校の榊教諭が行いました。

セミナー終了後、参加者による懇親会が催され、企業や自治体からの参加者に混じって、本学ソフトウェア情報学部の学生参加者も全員が参加しました。地域で積極的に新しい技術を取り込もうとする IT 企業の経営者や現場の技術者と直接交流できる貴重な機会を活かし、4 年生や 3 年生の参加者が自分から積極的に話しかけ、交流を深めました。主催者である青森県や参加企業からも若い学生の参加は大変歓迎されており、懇親会の冒頭では主催者からの指名でソフトウェア情報学部 3 年生の梅原稜君が多くの参加者を前に参加者代表の挨拶を務めました。

参加した学生にとっても、新しい技術のイノベーションに触れるとともに、地域で活躍する社会人・企業人との

コミュニケーションを実地で学び、さらに自らの進路のために新しい人脈を広げるきっかけとなる重要なイベントとなりました。

[基本情報技術者試験午前試験免除講座] （和島 茂、友田 敏章、李 孝烈）

4 月 16 日の基本情報技術者試験において 3 年山上 翼君が見事合格し、資格を取得しました。また、6 月 11 日の午前試験免除修了試験には 2 年三上 奈緒さんが合格し、10 月の本試験での資格取得を目指して頑張っています。

[Art & Technology 展 2017]（角田 均、和島 茂）

7 月 1 日に岩手大学において行われた芸術科学会主催の作品展 Art & Technology 展に、3 年梅原 稜君、佐藤 祥子さん、成田 夕貴さんが作品を出展し、奨励賞を受賞しました。

[活動報告]

白岩　貢（演奏会出演等）

「日本基督教団石岡教会献堂式」茨城県石岡市・石岡教会（2017.1.22）

「在宅医療市民公開フォーラム」青森市・ねぶたの家ワラッセ（2017.3.18）

「シューマン夫妻の歌物語～連作歌曲の愉しみ～」青森市・青森公立大学国際交流ハウス（2017.5.20）

「第 1 回走れメロス音楽祭」弘前市・弘前市民会館（2017.6.25）

白岩　貢（出張講座等）

「おでかけクラシック 2017」アウトリーチ事業

＜歌唱指導、コンサート＞

青森明の星中学校（2017.6.23）

青森市立奥内小学校（2017.6.28）

青森市立合浦小学校（2017.6.28）

[学会、研究会、セミナー、発表]

新宅 伸啓・加藤 秀斗・角田 均・小久保 温・田中 志子・工藤 雅世・坂田 令

「発達障がい児のための目標設定アプリ「ぐんぐん」」、平成 28 年度芸術科学会東北支部大会(いわて県民情報交流センター アイーナ)、2017 年 1 月 28 日

工藤 誠也・澤田 洋二・角田 均・小久保温

「水環境の観察記録を公開するウェブ・アプリケーションの開発」，平成 28 年度第 6 回情報処理学会東北支部研究会（弘前大学），2017 年 2 月 20 日

澤田洋二・工藤誠也・角田均・小久保温(青森大学)，三上一(元青森県)，矢野篤男(東北工業大学)

「水環境健全性指標のための Web アプリの開発」(L-116)，日本水環境学会第 51 回年会(熊本大学)，2017 年 3 月 15 日

三上一(元青森県), 角田均・小久保温・澤田洋二・工藤誠也(青森大学), 丸山裕治・坂剛(八戸市立下長中学校)

「インターネット対応の Web 型マップアプリを用いた中学生による馬淵川の水環境健全性指標調査について」(2-D-11-3), 日本水環境学会第 51 回年会(熊本大学), 2017 年 3 月 15 日

加藤 秀斗・角田 均・小久保 温・新宅 伸啓・田中 志子・工藤 雅世・坂田 令、

5ZC-05「発達障がいを持つ子供の生活支援のための Web+Android システム」、情報処理学会第 79 回全国大会 (名古屋大学)、2017 年 3 月 17 日

小久保 温・澁谷 泰秀・吉村 治正・渡部 諭、

6F-03「社会調査における郵送による質問紙と Web アプリケーションの比較」、情報処理学会 第 79 回 全国大会 (名古屋大学)、2017 年 3 月 18 日

薬　学　部

[平成 28 年度第 1 回実務実習発表会]

2 月 20 日（月）、平成 28 年度第 1 回実務実習発表会を開催しました。

薬学部 5 年生は、病院と薬局において、それぞれ 11 週間、実際の調剤を体験しながら勉強します。本学では、青森県をはじめとする多くの病院や調剤薬局などの協力のもと実務実習を行っています。この実務実習が終了した後、大学において、実務体験の発表を行います。

今回、学生は、担任及び実習施設の指導薬剤師の先生方のアドバイスを受け、各自が学んできた内容を発表しました。

指導薬剤師の先生方や本学教員も出席する中で行われましたが、病院と薬局で経験を積んだだけあって、堂々とした発表ばかりでした。

（青森大学ホームページより）

[平成 28 年度第 2 回実務実習発表会]

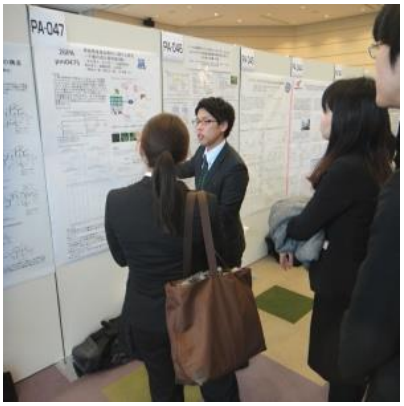
4 月 12 日（水）、平成 28 年度第 2 回実務実習発表会を開催しました。

（青森大学ホームページより）

[日本薬学会第137年会（仙台）]

薬学部の在学生 2 名と教員 2 名が、平成 29 年 3 月 24 日（金）～3 月 27 日（月）に行われた、日本薬学会第 137 年会（仙台）で発表しました。

（青森大学ホームページより）



25W-pm15
生体内モノアミン枯渇をトリガーとする慢性不定愁訴症候群様動物モデルの構築
○逢坂 奈々[1], 東 龍太郎[1], 高橋 沙玲[1], 竹林 優佳[1], 川崎 沙織[1], 村井 取平[1], 三輪 将也[1], 齊藤 弘子[1], 永倉 透記[1]（[1]青森大学薬学部）

非器質的障害性に原因不明の種々の不定愁訴が生じる慢性不定愁訴症候群として、過敏性腸症候群、線維筋痛症および慢性疲労症候群等があり、治療の困難さ・社会保障費増大の面から深刻な問題となっている。従って慢性不定愁訴症候群の病態機序解明は喫緊の課題である。当研究室は「生体内モノアミンによる調節機構破綻をトリガーとして、サイトカインあるいはホルモン異常を介して慢性不定愁訴が発症する」と仮説を立てた。本研究は、生体内モノアミンの持続的低下により、不定愁訴関連症状が生じるか否かをマウスを用いて検証し、慢性不定愁訴症候群様動物モデルを構築することを目的とした。マウスにモノアミンを枯渇させる薬理学的ツールであるレセルピンを投与した。疼痛閾値を von Frey hair 法、腸管輸送機能を色素移動距離測定およびビーズ法、探索行動量をビームセンサーによってそれぞれ測定し、不定愁訴関連症状の有無を検討した。また、脳や脊髄等の部位におけるモノアミン量を HPLC 法によって経時的に測定した。本検討の結果、レセルピン処置マウスにおいて、健常マウスと比較して有意に痛覚閾値が低下し、腸管輸送速度が変化し、探索行動量が減少していた。また、生体内モノアミン量が有意に低下していることを確認した。本研究は、モノアミンによる生体機構調節の減弱が、各種の慢性不定愁訴関連症状（慢性疼痛や過敏性腸症候群様の腸管機能異常）を惹起することを明らかにした。また、生体内モノアミン量の変化が各種症状と関連していることを示唆した。本研究において確立された、"生体内モノアミン枯渇をトリガーとする慢性不定愁訴症候群様動物モデル"は、原因不明の不定愁訴症候群の病態機序を解明するための有用な研究ツールとなると考えられる。

26PA-pm047S
青森県産食品素材に関する研究－干菊の成分研究第 3 報－
○本木 雅大[1], 村上 浩一[1], 大越 絵実加[1], 梅村 直己[2], 齋藤 俊昭[3], 上田 修二[1]（[1]青森大薬, [2]朝日大歯, [3]日本薬大）

【目的】干菊は青森県の特産品として知られ、キク科植物 *Chrysanthemum morifolium* の花弁を蒸して乾燥させたものである。菊の花は『神農本草経』に収載されており、古来より延命長寿の花として知られているが、それらを裏付ける科学的根拠や含有成分についてはほとんど報告されていない。我々は加齢に伴う生体機能の低下予防を目的とし、老化・寿命を制御する重要な因子として知られている SIRT1 の発現を指標とした キク乾燥花弁 MeOH 抽出エキスの成分研究を行った。
【方法】市販の *C. morifolium* の乾燥花弁を MeOH で冷浸抽出し、MeOH 抽出エキスを得た。この MeOH 抽出エキスを溶媒間分配し、得られた画分をシリカゲルカラムクロマトグラフィー及び HPLC を用いて分離・精製を行うことで化合物を単離した。単離化合物は、NMR 等の機器分析によりその構造を解析した。次に本植物 MeOH 抽出エキスおよび単離した化合物について、ヒトロ腔癌細胞株 HSC-3、及びヒトケラチノサイト HaCaT を用い、MTT 法により細胞増殖抑制作用を検討した。また、SIRT1 の発現について Immunoblot 法を用いて検討を行った。
【結果及び考察】分離した化合物については、主にスペクトルデータを文献値と比較することにより heliantriol C 及び maniladiol の脂肪酸エステル、stigmasterol 及び β-sitosterol を単離・同定した。細胞増殖抑制作用は、本植物 MeOH 抽出エキスにおいて IC_{50} > 100 μg/mL を示し、単離した化合物においても HSC-3 及び HaCaT ともに IC_{50} > 100 μM を示した。続いて、単離した化合物について SIRT1 の発現を検討した結果、heliantriol C 脂肪酸エステルに発現上昇が認められた。本発表では、単離化合物の構造解析について報告するとともに、今後、干菊を機能性食品素材として有効利用するために、他の生物活性評価を試みる予定である。

25PB-pm258
薬学生によるセルフメディケーション発信の有用性－健康意識向上に対する地域医療支援－
○井沼 道子[1], 相馬 理佐[1], 遠見 華菜恵[1], 佐々木 智江[1], 澤田 陽生[1], 中村 祐介[1], 村井 取平[1], 村上 浩一[1], 本木 雅大[1], 竹林 優佳[1], 小笠原 大樹[1], 大越 絵実加[1], 佐藤 芳久[1], 三浦 裕也[1], 上田 修二[1]（[1]青森大薬）

【目的】健康に過ごすためには、自分の健康は自分で守ることを意識し、積極的に健康管理に関わることが大切である。青森大学薬学部では青森県の疾病県返上を掲げ、青森市と連携し、奥地臨床に従事する薬剤師と共に、薬学生による地域に沿ったセルフメディケーションのフィールドワークを行っている。地域の薬学生が薬剤師と共にセルフメディケーションの有用性を発信することで、病気予防・健康増進の支援、他職種との連携などの地域医療体制に貢献することを目標としている。
【方法】青森市に居住するプログラム参加者を調査対象とした。展示型の知識提供と体験型の健康チェック機器を同じフロアに展開し、参加者の選択に任せる形式で、どちらの情報提供が自身にとって健康意識向上に効果的かアンケート調査（無記名配布形式）を行った。本調査は、青森大学薬学部の倫理審査委員会の承認を得て行った。
【結果・考察】プログラム参加者 203 名から回答が得られ、回収率は約 97%であった。アンケート結果では、約 86%の参加者が健康チェック機器に興味を持ったと回答し、約 50%が「自身の健康について興味を持った」と答えた。本調査により地域に沿ったセルフメディケーションに効果的な情報提供法を見出すとともに、地域住民や地方自治体等と協働し、地域医療の支援体制を充実させるための取り組みにつなげていきたい。
【助成】H27・28 年度青森市まちなかフィールドスタディ支援事業補助金

27W-pm01S
頭頸部扁平上皮癌におけるシスプラチン耐性株の機能解析
○村上 浩一[1], 本木 雅大[1], 大越 絵実加[1], 梅村 直己[2], 上田 修二[1]（[1]青森大薬, [2]朝日大歯）

【目的】頭頸部癌は世界的に 6 番目に高い罹患率であり、また頭頸部という複雑な部位に発生することから外科的切除が難しく、たとえ切除しても患者の Quality of life を著しく低下させる。加えて 5 年生存率が 30-50%という悪性度の高い癌である。一般的ながん幹細胞マーカーである CD44 陽性が 36%以上の場合、15%と比較し、再発リスクが高いことが報告されている。現時点の癌治療では、化学療法や手術などで癌を縮小・切除したにもかかわらず 30%の例で再発・転移を招き、さらに抗癌剤治療後の多発耐性癌の出現は、癌根治において解決すべき課題である。我々は抗癌剤の投与により耐性を獲得する過程で、がん幹細胞がどのように関与しているかを調べている。今回、頭頸部癌治療の第一選択薬であるシスプラチンを細胞株に長期間投与し、シスプラチン耐性株を作製した。この耐性株の機能解析を行ったので報告する。
【方法】ヒト頭頸部扁平上皮癌 HSC-3 細胞株に対してシスプラチンを段階的に長期間投与し、シスプラチン耐性株（R-HSC-3）を作製した。MTT 法によりシスプラチン以外の抗癌剤に対して交叉耐性を獲得しているか検討を行った。また、Immunoblot 法を用い、がん幹細胞マーカーCD44 およびアポトーシスマーカー cleaved PARP (cPARP)の検討を行った。
【結果】HSC-3 および R-HSC-3 に対して MTT 法により、細胞増殖抑制試験を行った結果、それぞれシスプラチン：IC_{50} = 16.9 ± 2.6, 63.6 ± 12 μM、ドセタキセル：IC_{50} = 3.65 ± 0.6, 30.6 ± 2.5 nM、SN-38：IC_{50} = 5.48 ± 1.38, 81.6 ± 5.9 nM となった。CD44 の発現は HSC-3, R-HSC-3 に見られたが、シスプラチンの感受性低下 (cPARP) が R-HSC-3 に認められた。
【考察】以上の解析結果から、シスプラチン耐性株は微小管脱重合阻害剤やトポイソメラーゼⅠ阻害剤に対しても耐性を獲得していた。今後、作製した細胞株を用いて分子標的薬の感受性や薬剤排出トランスポーターについても検討を行う。

[薬用植物園の見学]

6 月 10 日（土）、薬学部 1 年生のキャリアデザインIAの早期体験学習の一環として、青森市農業指導センター内の「薬用植物園・ハーブ園」にて学外学習を実施しました。

この施設は、青森市出身の元東大薬学部長であった石舘守三氏が監修され、県内でも有数の薬用植物園です。薬用植物園には、約 70 アールの園内に、薬草 200 種、薬木 70 種、水生薬用植物 10 種を展示栽培しています。また、ハーブ園では、面積約 7 アールの園内にラベンダー、タイム、ミント、セージなど約 110 種類のハーブを展示栽培しています。あいにくの雨の中、学生を 5 班に分け、教員 6 名が引率し説明しました。また、6 年生 2 名がサポートとして参加してくれました。学生は、教員とサポートの説明に熱心に耳を傾け、メモを取り質問をしていました。この体験見学を通して学生が薬用植物に興味を持ち、今後の関係教科の勉学の励みになることを期待したいものです。（青森大学ホームページより）

[平成 29 年度第 1 回青森大学オープンキャンパス]

6 月 17 日（土）、平成 29 年度第 1 回青森大学オープンキャンパスを開催いたしました。

薬学部では、次のメニューを実施しました。

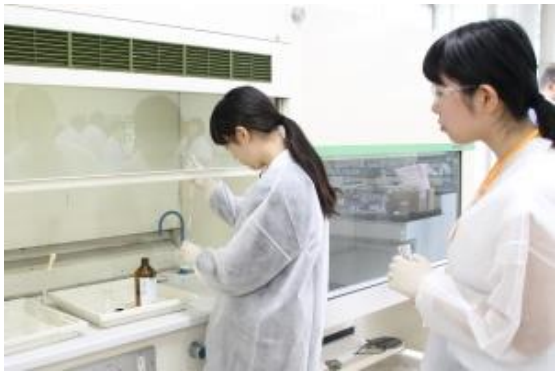
1. 安全講習
2. アスピリンの合成
3. 弁当を食べながら、「入試説明」「今後の薬学部のイベント情報」「アンケートの記入」
4. ワールドカフェ形式での薬学生との歓談
5. 映像資料による薬剤師の仕事紹介

6. 薬学部へようこそ～今後必要となる知識・技術とは～
7. 薬学部紹介～青森大学薬学部で学ぶ利点～

参加された皆さんは、楽しそうに、興味深そうに実験を行っていました。薬剤師等への進路選択の一助になったかと思います。また、本学薬学部の在学生（6 年生 7 名、5 年生 2 名、4 年生 3 名）が「アスピリンの合成」を手伝ってくれました。そして、フレッシュで強力な助っ人の薬学部 1 年生（4 名）がオープンキャンパスを支えてくれました。

サポートしてくださった本学学生の皆さん、極上のおもてなし精神で対応してくださり本当にありがとうございました！

（青森大学ホームページより）



[平成 29 年度　「しあわせあおもり」に生きるセミナー]

6 月 25 日（日）に、「未来　健康『しあわせあおもり』に生きるセミナー」を、青森新都市病院内の講堂で開催しました（主催：青森大学薬学部　共催：医療法人　雄心会、青森大学脳と健康科学研究センター）。

講演に先立ち、三浦薬学部長から挨拶と趣旨説明があり、引き続き講師の松坂育子 氏（青森県健康福祉部がん・生活習慣病対策課　健やか力推進グループ主幹）が講演しました。「青森県の健康寿命延伸に向けた対策について」と題した講演では、まず青森県と全国の平均寿命や死亡率について触れ、次いで病気ごとに特徴が説明されました。

特に、がんによる死亡率ついては、津軽地方・下北地方の死亡率が高いこと、治癒が期待できる段階で発見される人が少ないことなどの特徴があげられ、がん検診をあまり受けていないこと、調子が悪くなってもなかなか医療機関を受診しないことが、結果的に発見の遅れにつながっているのではないか、との見方が示されました。この対策として、県のがん対策推進条例を取り上げ、大腸がん検診モデル事業などの取り組みについて紹介されました。

また、糖尿病についても、生活習慣などの改善の方法や、県の糖尿病対策関連事業が紹介されました。
最後に、働き盛り世代が健康に過ごすための対策や取り組み事例が紹介されました。
約 50 名の参加者は、講師の話に真剣に聞き入り、熱心にメモを取っていました。

このセミナーは、テーマを変えて今年度内にあと 4 回開催する予定で、次回は 9 月に開催の予定です。

（青森大学ホームページより）

[出張講義などの実施状況]

三浦裕也:明の星中高校職業体験セミナー 出張講義 薬剤師の仕事について 2017 年 6 月 16 日(金)

[報告論文]

Chantarasrivong C, Ueki A, Ohyama R., Unga J, Nakamura S, Nakanishi I, Higuchi Y, Kawakami S, Ando H, Imamura A, Ishida H, Yamashita F, Kiso M, and Hashida M Synthesis and Functional Characterization of Novel Sialyl LewisX Mimic-Decorated Liposomes for E-selectin-Mediated Targeting to Inflamed Endothelial Cells. Molecular Pharmaceutics, 14:1528-1537 (2017)

Negishi J, Omori Y, Shindo M, Takanashi H, Musha S, Nagayama S, Hirayama J, Nishina H, Nakakura T, Mogi C, Sato K, Okajima F, Mochimaru Y, Tomura H.: Manganese and cobalt activate zebrafish ovarian cancer G-protein-coupled receptor 1 but not GPR4. J Recept Signal Transduct Res. 37: 401-408

Lee KP, Park SJ, Kang S, Koh JM, Sato K, Chung HY, Okajima F, and Im DS: Omega-3 polyunsaturated fatty acids accelerate airway repair by activating FFA4 in club cells. Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 312:L835-L844 (2017)

Uchiyama T, Okajima F, Mogi C, Tobo A, Tomono S, Sato K.: Alamandine reduces leptin expression through the c-Src/p38 MAP kinase pathway in adipose tissue. PLoS One. 12:e0178769 (2017)

Nagakura Y. The need for fundamental reforms in the pain research field to develop innovative drugs. Expert Opin Drug Discov 12:39-46, (2017)

Ohkoshi E and Umemura N, Induced overexpression of CD44 associated with resistance to apoptosis on DNA damage response in human head and neck squamous cell carcinoma cells., International Journal of Oncology, 50: 387-395 (2017)

Sumi S, Umemura N, Takayama E, Ohkoshi E, Adachi M, Mizuno-Kamiya M, Inagaki T, Kawaki H, Sumitomo S, Kondoh N, Metastasized murine oral squamous cell carcinoma cells induce intratumoral polymorphonuclear myeloid derived suppressor cells., Oncology reports, 37: 2897-2904 (2017)

[学会発表など]

Tsurumaki H, Hisada T, Mogi C, Saito-Aoki H, Yatomi M, Kamide Y, Tobo M, Sato K, Koga Y, Ono A, Dobashi K, Ishizuka T, Yamada M, Okajima F Proton-sensing TDAG8 exhibits the protective role in lipopolysaccharide-induced acute lung injury. ERS INTERNATIONAL CONGRESS 2016, Sep. 3～7 (2016) LONDON, United Kingdom

Yatomi M, Hisada T, Hachisu Y, Saito Y, Tsurumaki H, Kamide Y, Aoki-Saito H, Koga Y, Ono A, Dobashi K, Ishizuka T, Yamada M, Okajima F 17(R)-resolvinD1 improves MMP-9/TIMP-1 imbalance leading to amelioration of pulmonary fibrosis in mice. ERS INTERNATIONAL CONGRESS 2016, Sep. 3-7 (2016) LONDON, United Kingdom

Saito H, Hisada T, Mogi C, Tsurumaki H, Yatomi M, Kamide Y, Ono A, Koga Y, Dobashi K, Ishizuka T, Okajima F, Yamada M：Absence of proton sensing OGR1 protects against house dust mite-induced allergic airway inflammation ERS INTERNATIONAL CONGRESS 2016, Sep. 3-7 (2016) LONDON, United Kingdom

Nagakura Y The use of fibromyalgia (FM)-like animal models for research of novel analgesics. The 90th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, Nagasaki, Japan, Mar 15-17, 2017.

村上浩一 1、本木雅大 1、大越絵実加 1、梅村直己 2、上田條二 1（1 青森大・薬、2 朝日大・歯）頭頸部扁平上皮癌におけるシスプラチン耐性株の機能解析日本薬学会 137 年会 3 月 24－27 日、仙台

本木雅大 1、村上浩一 1、大越絵実加 1、梅村直己 2、齋藤俊昭 3、上田條二 1（1 青森大・薬、2 朝日大・歯、 3 日本薬・大）青森県産食品素材に関する研究－干菊の成分研究第 3 報－日本薬学会 137 年会 3 月 24－27 日、仙台

井沼 道子 1, 相馬 理佐 1, 邉見 華菜恵 1, 佐々木 智江 1, 澤田 陽生 1, 中村 祐介 1, 村井 収平 1, 村上 浩一 1, 本木 雅大 1, 竹林 優佳 1, 小笠原 大樹 1, 大越絵実加 1, 佐藤芳久 1, 三浦 裕也 1, 上田 條二 1（1 青森大薬）薬学生によるセルフメディケーション発信の有用性－健康意識向上に対する地域医療支援－日本薬学会 137 年会 3 月 24－27 日、仙台

逢坂 奈々、東 龍太郎、高橋 沙衿、竹林 優佳、川崎 沙織、村井 収平、三輪 将也、齊藤 弘子、永倉 透記「生体内モノアミン枯渇をトリガーとする慢性不定愁訴症候群様モデルの構築」日本薬学会第 137 年会 2017 年 3 月 24－27 日、仙台

[学会活動など]

永倉 透記 第 90 回日本薬理学会年会：企業企画シンポジウム「慢性疼痛治療薬の最前線：線維筋痛症の治療薬と研究新展開」（オーガナイザー） 2017 年 3 月 15－17 日、長崎新聞文化ホール、長崎

[その他]

外部資金の獲得状況

大越 絵実加 独立行政法人日本学術振興会 H29 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI（研究成果の社会還元・普及事業）実施代表者、329,000 円